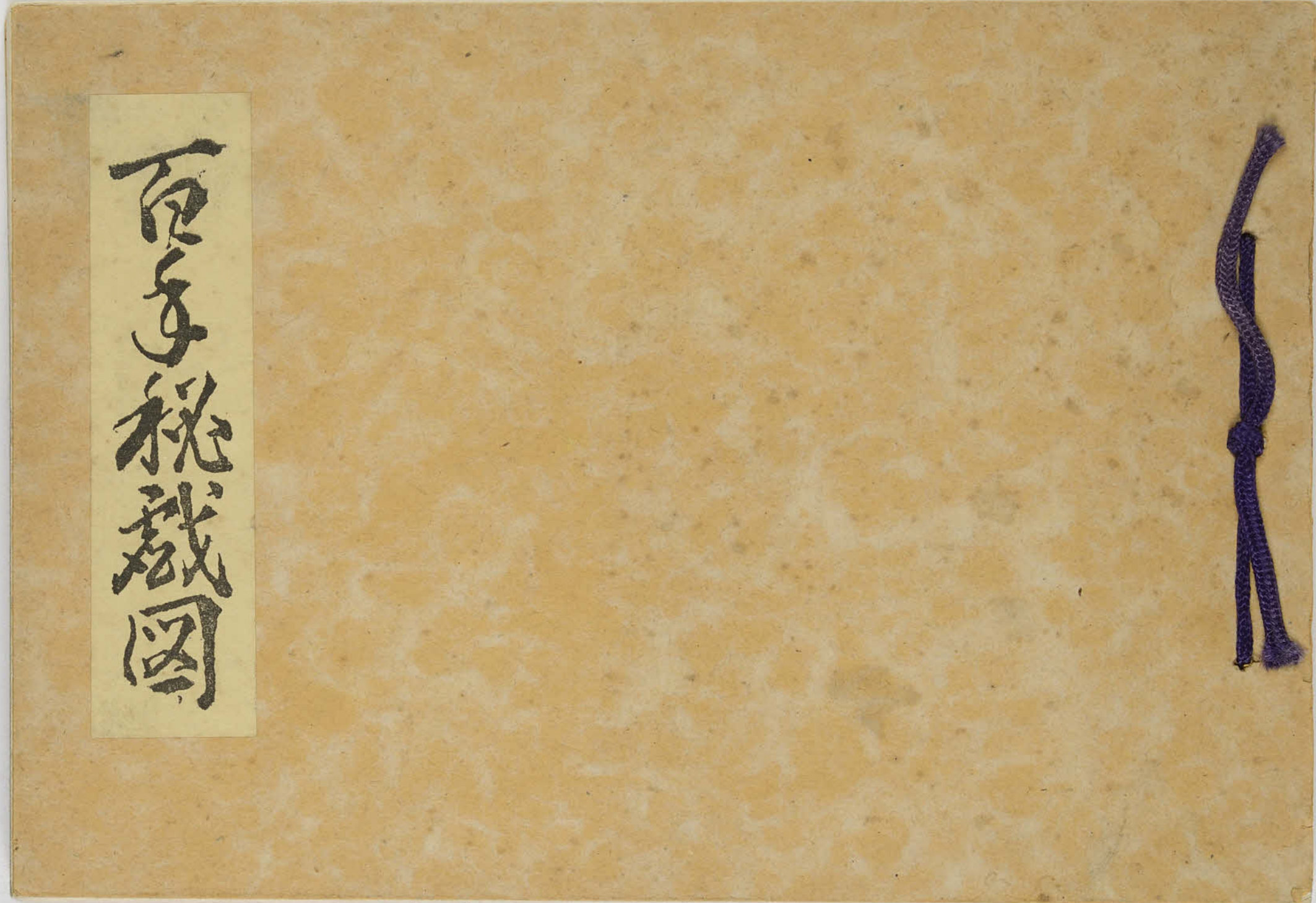




百子秘裁図



百子秘裁圖

序 説

古往今来性慾学に関する著書は各種出だされてゐるが、性交に關してはその附隨的項目として、医学上の立場より學術的に記述してあるのみで、一步進んで我々が知ろうとする性交の実態には全然ふれてゐないのである。眞実の探求は生とし生ける者の本能である。

性交の姿態に就いて、之をエロとかワイセツとかの一言で片付けるのは、余りにも偏狹であり且つ不自然である。その實際的に行爲には秘密を要するが、その理論や解説は周知徹底されるのが望ましい。昔は嫁ぎ行く娘の簞笥の中へソツと枕草紙を忍ばせて、せめてもの性教育に資した親心が今日の觀念からすたばむしる滑稽でさえある。

ヴァノ・デ・ヴェルデの「完全なる結婚」の邦訳は性行に關する限り我国で最初の公開出版と云へるが、その難解な専門用語で医学的に記述されてゐるのには、一般に理解され難く、依つて大衆が眞に欲する簡明にしてしかも卒直なる性交の実態を教へようとしたのが本書である。世に稱される四十八手裏表の表四十八手を収録し、下卷には裏の奥伝四十八手を收め、併せて上下二卷百手秘戯と稱されるものである。下卷は相当性戯に熟達した諸兄諸姉に必要とする高度なものであるから、先づ上卷より充分マスターされ琴瑟相和されんことを祈る。

著 者 識

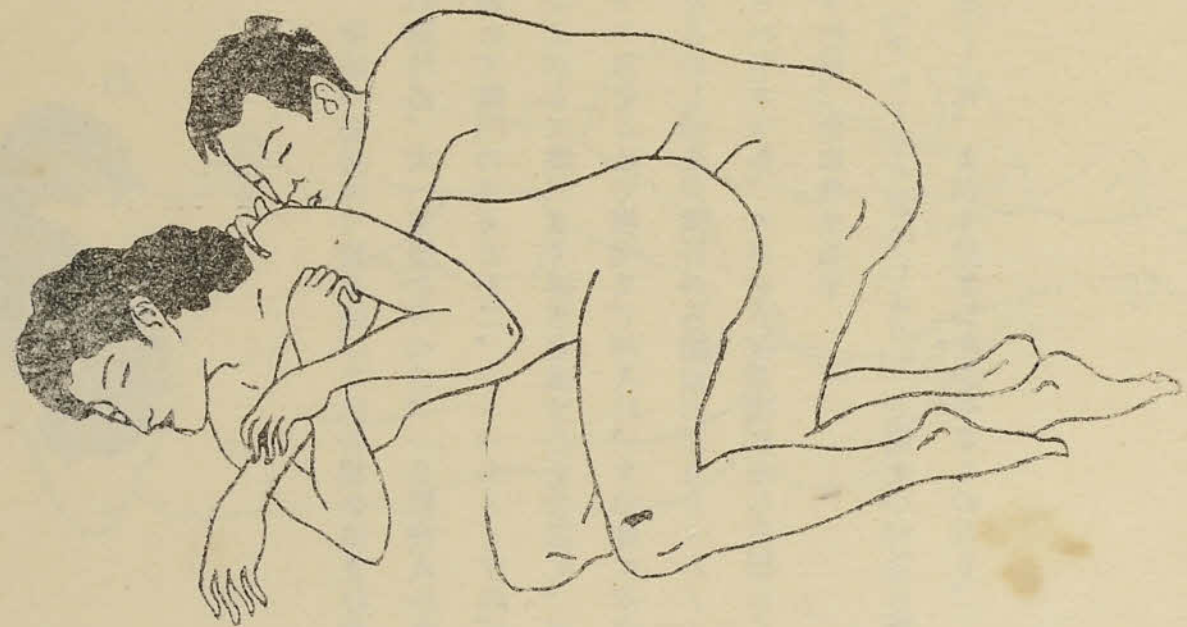
第一部

四十八手

● 送りつつたり

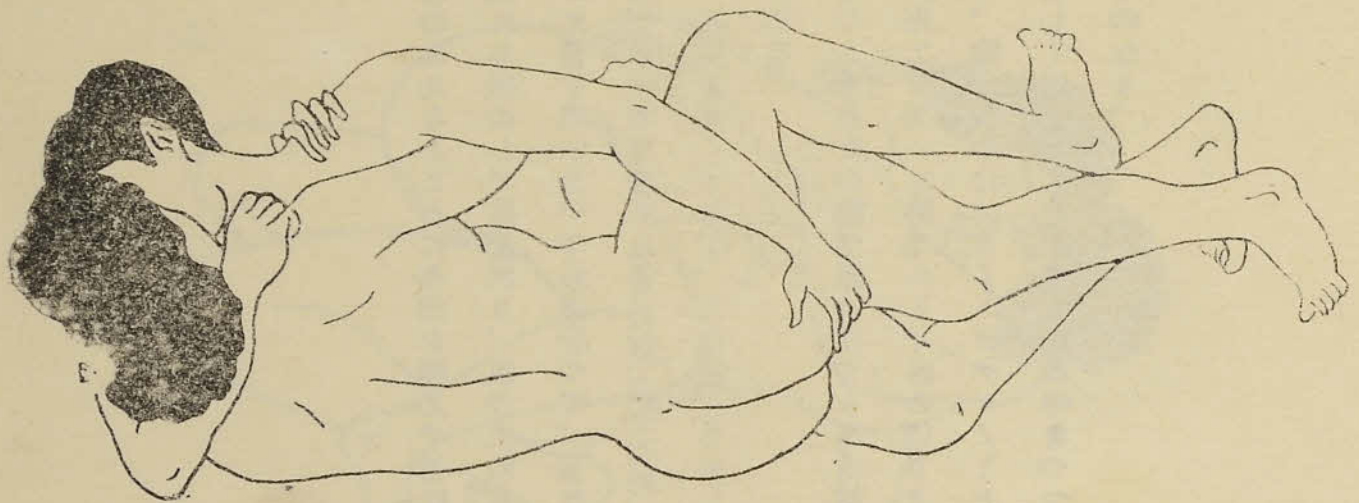
女俯伏せの姿勢にて両膝をつき男は女の後ろより勃起したる男根を挿入れ、左手を女の脇下に入れると、女はその手を両腕に抱へてグツとひきつけ男の腿を内股にはさんで、後ろから男がグイ／＼と抜きさしする。男根の雁先を子宮へ当るように加減しながら

「いゝわ〜」と鼻息もあらく双方同時にきをやるものなり。



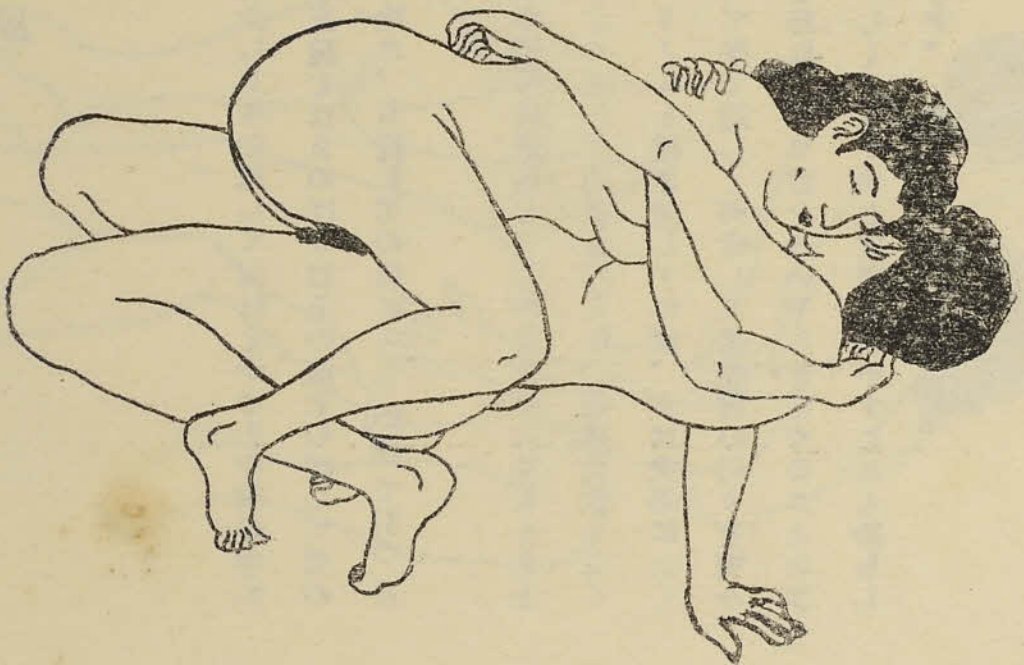
横臥の姿勢にて股を展げて男の腰をはさむ女の陰門に、太い男根を押しつけ、一分程押し入れ龟头にて陰門の口もとを二、三十ぺんもこすれば女よがりて陰門より淫水を流すのを合図に、グット力をこめて根元まで押し入れ、女の臀に片才をまわし指先で陰唇から陰核の辺りをヌル〜といぢり乍ら、ズボンぐ〜と抜き差しを烈しくすれば、女はたまらず

「アレーもうどうしよう」と悶えつつ息も絶え〜に、よがり泣きしきをやるものなり。



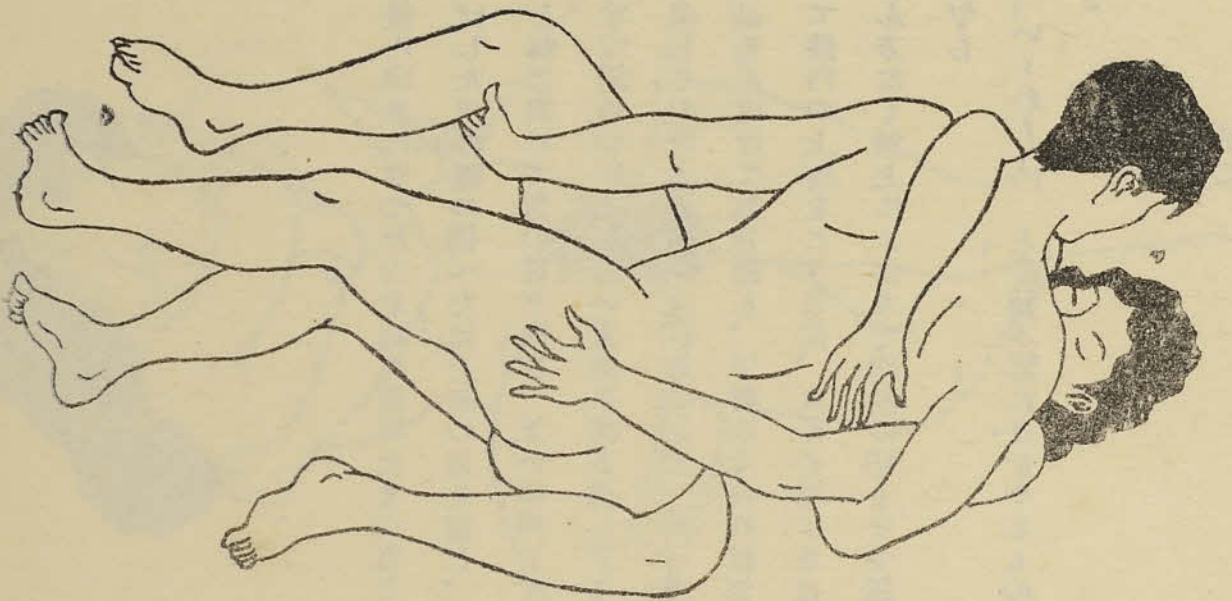
背のあたるところに布団を積んで男はそれにもたれる様にして膝を折り、腹の上に女を乗せ互いに舌を吸い合い乍ら抱合つて、男は火の様になつてゐる男根に全身の精力をこめてスカ／＼と抜き差しすれば、女は腰をまわしてこれに応じる。

そのうちに女の陰門愈々ほてり淫水滝の如く流れ出て、互いに陰毛から下腹の辺りまでヌル／＼、陰門の中はズボ／＼ガチャ／＼と鳴音も悩ましく男女とも夢中で大声に呻きつつきをやるものなり。



男少し上体を起して右肘をつきその腕の中に
女の左腕をはさめば女はその腕をのばして男の
腰を抱き、右腕を男の肩にうちかけて引つけ
る。

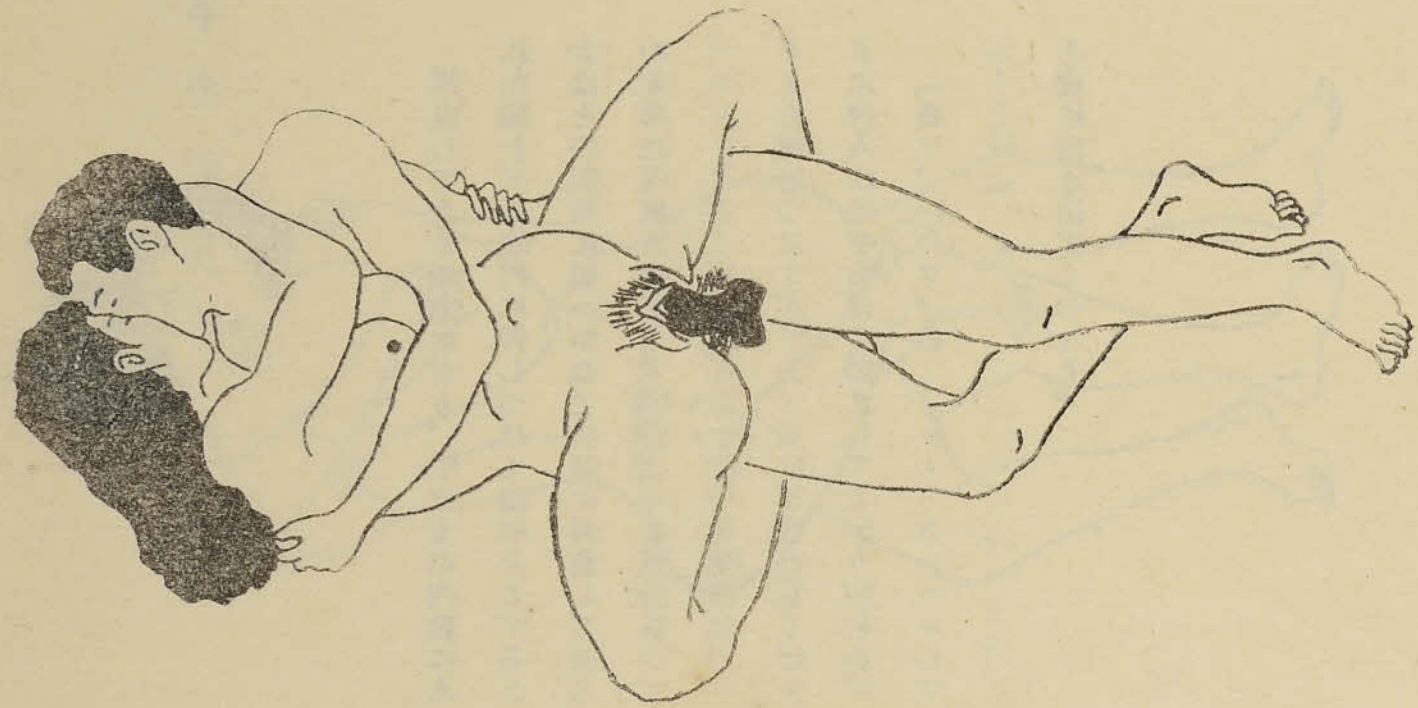
その時男は割込んで左手で女の右足をもち上
げるようにして男根を挿入れ、遠慮会釈もなく
ブスリ／＼と抜き差しすれば、女は次第によく
なつて来て烈しく興奮して男の肩の辺りを噛み
我を忘れてウワ言を云い乍らきをやることおび
たゞしく、悪くすれば腰をぬかすことも珍らし
からず。



後ろ向きになつた女を抱へ両足をまつ直ぐにのばした男の腿の後へ女は左右の足を廻し、上体をねじ向けて男の首を抱き、互いに頬をすりつけて締めつけく太い男根を抜き差しする。

但しこの際女の陰門上付きなれば、時々男根スボリと抜けて具合悪し、下付の女なれば亀頭に於て腔内の上壁をこする故、女の心地よさは云はん方なく無上によがりて内股の辺りまで濡らし乍ら

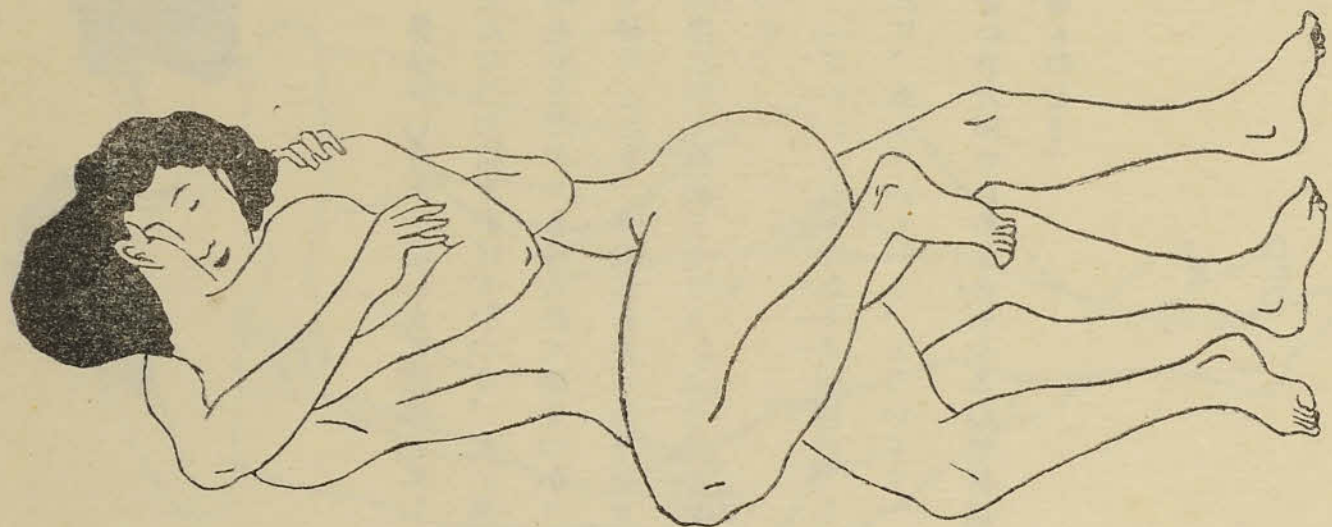
「いゝわく」と前後不覚にきをやるものなり。



● 手 谷 が け

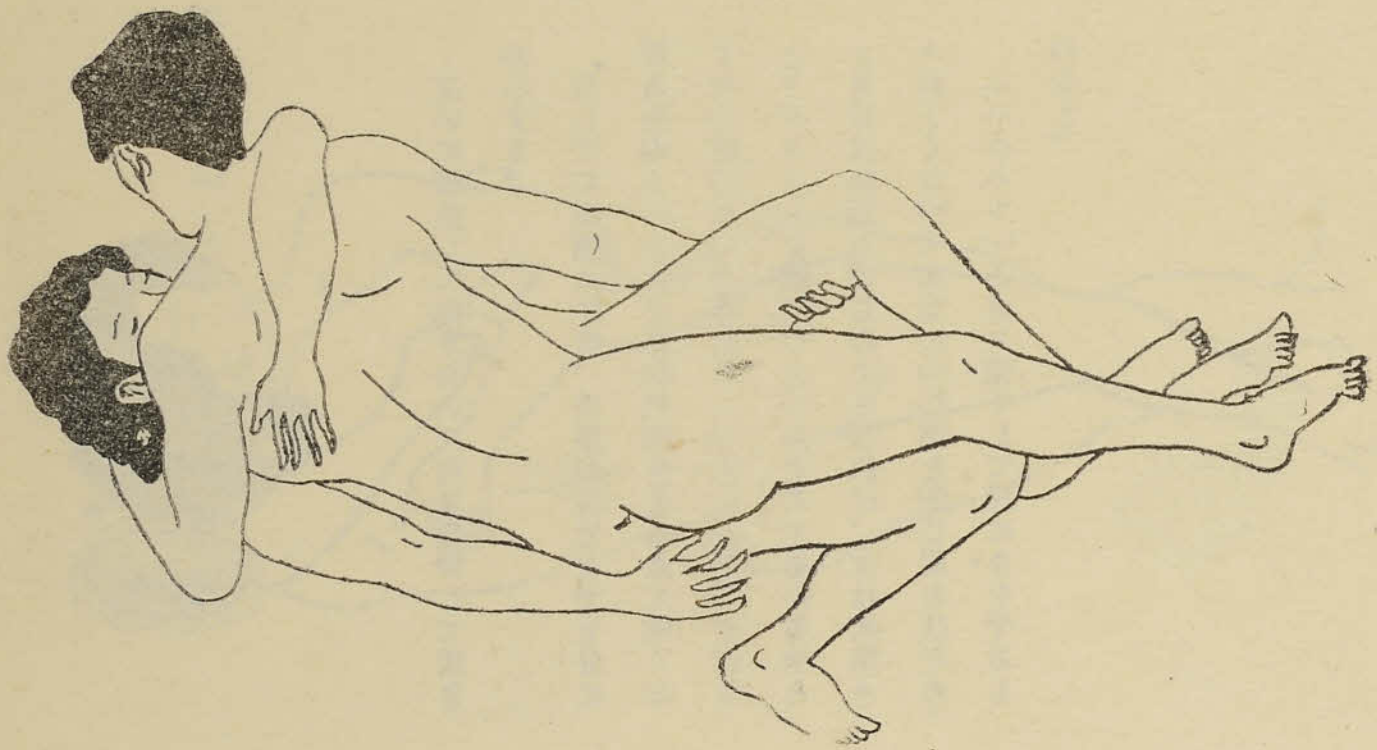
横臥して女やや上になり、男は女の内股に入れた腿を女の陰門に押しつけて陰核をこすると女はその刺戟に耐へかねて次第に興奮して来るのを男は機敏に見てとり頃合よきを見計らつてズキン／＼とうづく程におえ切つた龟头にベツタリと唾をつけてグツと一気に子宮に届くばかりに押入れるや女は身悶えしてよがり声をあげ「あッ、いいワ、あ……ッもうカンニンしてエ……」

と遂に泣き出すものなり。



男は少し身体を起し女を横抱きにして、女の上になつた腿をあげて引つけ、太い男根を根元の毛際までグツと押入れて腰をつかうと女は忽ち夢中となり、男の体を力の限り抱きながら、男根の胴で陰核をこすられるよさに耐らなくなつて、

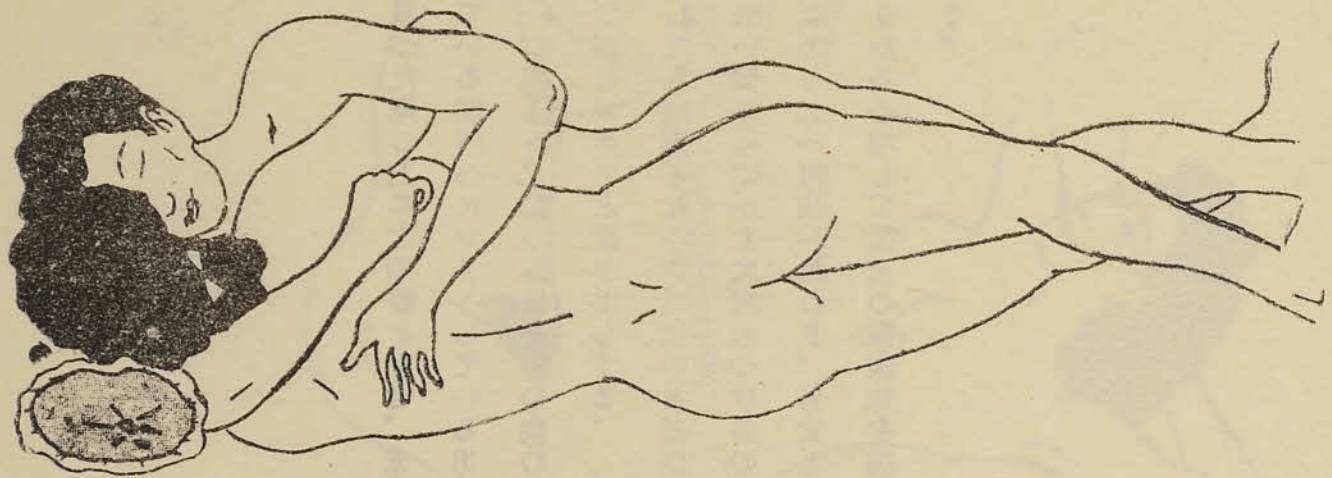
「アレいゝわ／＼おそそが溶けてしまひそう
だワ、あゝツいくいく、もういくツ」と辺りか
まわす大声でわめききをやるので男は困らされ
るものなり。



● 兩のばし

互いに横臥して抱き合い、両足を伸して抜き差しする。

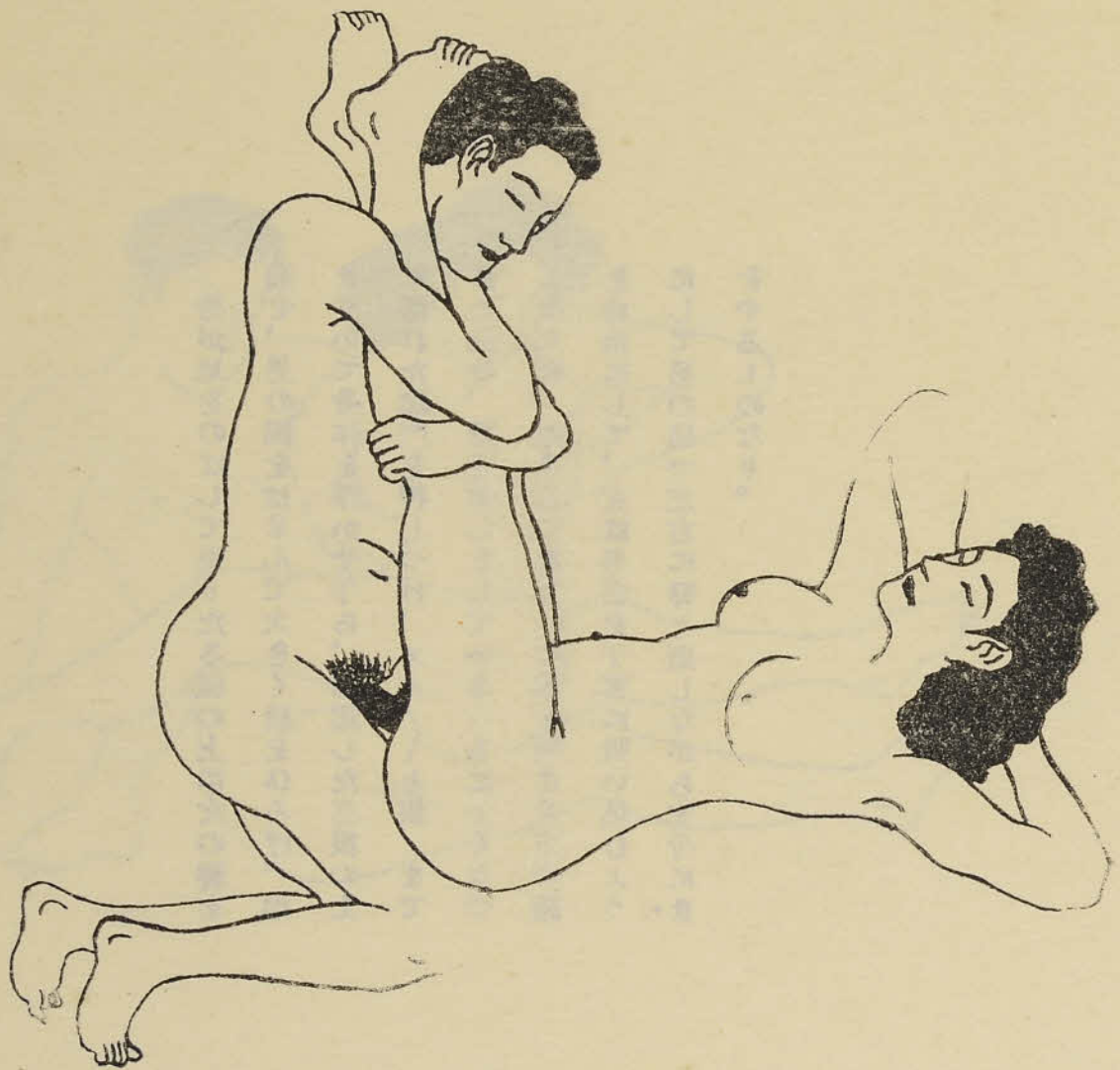
但しこの姿態にては、男根が根元まで充分に這入らぬものなれど両の内腿をそろえて狭くなりたる陰門に、男根を入れて太い雁先でガリ／＼グリ／＼と陰門の上づらをこすられる快ろよさは又格別な感じのよさなれば、女は次第々々によくなつて来るにつれ眼を閉じ眉をひそめ「ハツハツ」と息を荒くして遂にきをやるものなり。

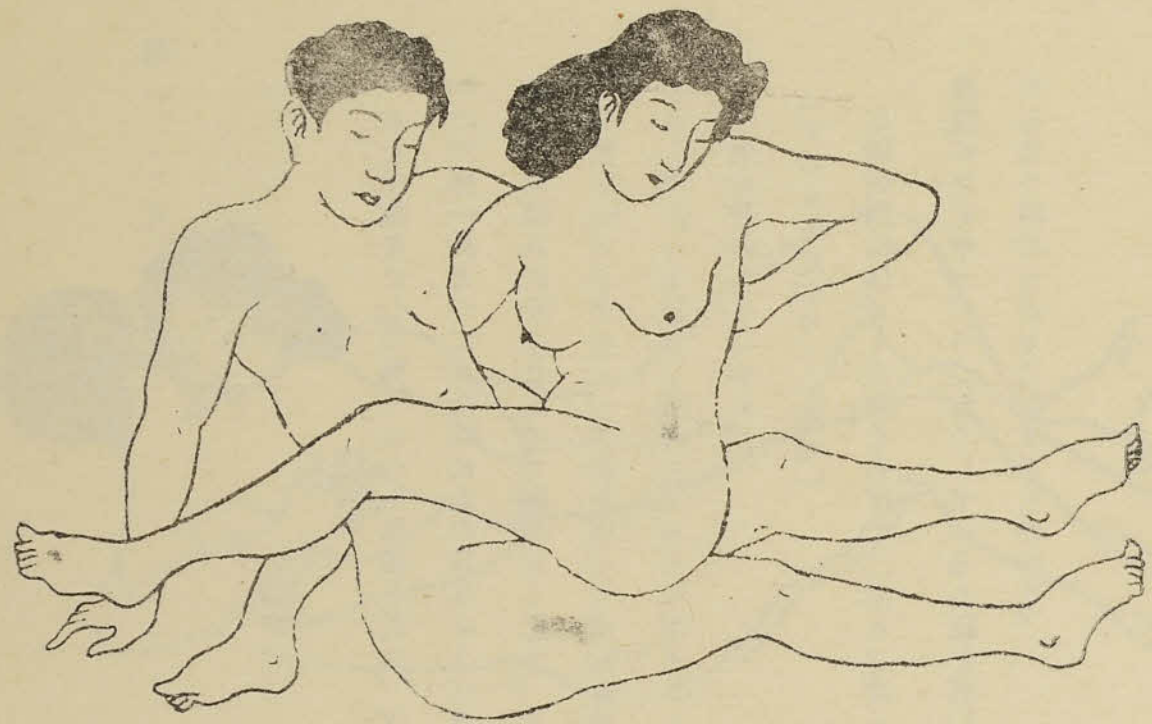


● 前づけ

男の坐つた腿の上に女の臀を乗せ、充分にうるほつている陰門へペン／＼している男根を根元一ぱいに押込み、女の両足を男の胸のところで抱えながらズボツと抜き差しする。

こうして入れると女の陰門はいとどひき締り男根を喰い切らんばかりに締めつけるので、こする度に快ろよい刺戟が加わり、男女とも天国にのぼりたる心地して性交の醍醐味を満喫するものなり。





● がけくすれ

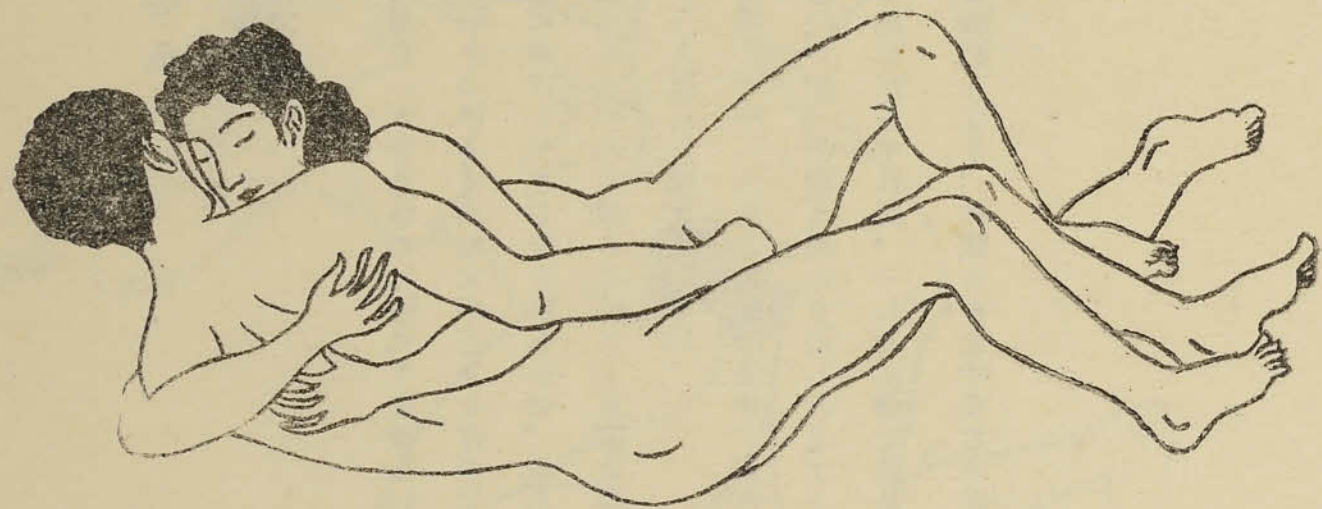
男が足をのばして坐りたる腿の上に女の臀を
乗せ、男の胴をはきんで大きく股をひろげ、抱
きついて身体を浮かせ乍ら、勃起した男根の上
に濡れた陰門を押しつけ、ヌル／＼と根 まで
はめ込み、抜き差しをしているうちによくなつ
て来た時、抱き合つた互いの腕を解き片方の腕
を自由にして、女は男根を子宮に吸い込むよう
にして男の腿で左右に臀を廻しながら充分にき
をやるものなり。

● 四どころぜめ

女を横抱きにして熱くなつた男根を入れ、互いに快感が高まつて来た時に女の片足を上げさせて、男は入れたまま右手で陰核をくじり、左手で乳をいぢり乍ら、女の舌を吸つて男根を抜き差しすれば女は男の四どころ責めに耐えかねて、髪の毟れものかわ、

「アレもう死ぬウ……死ぬ」

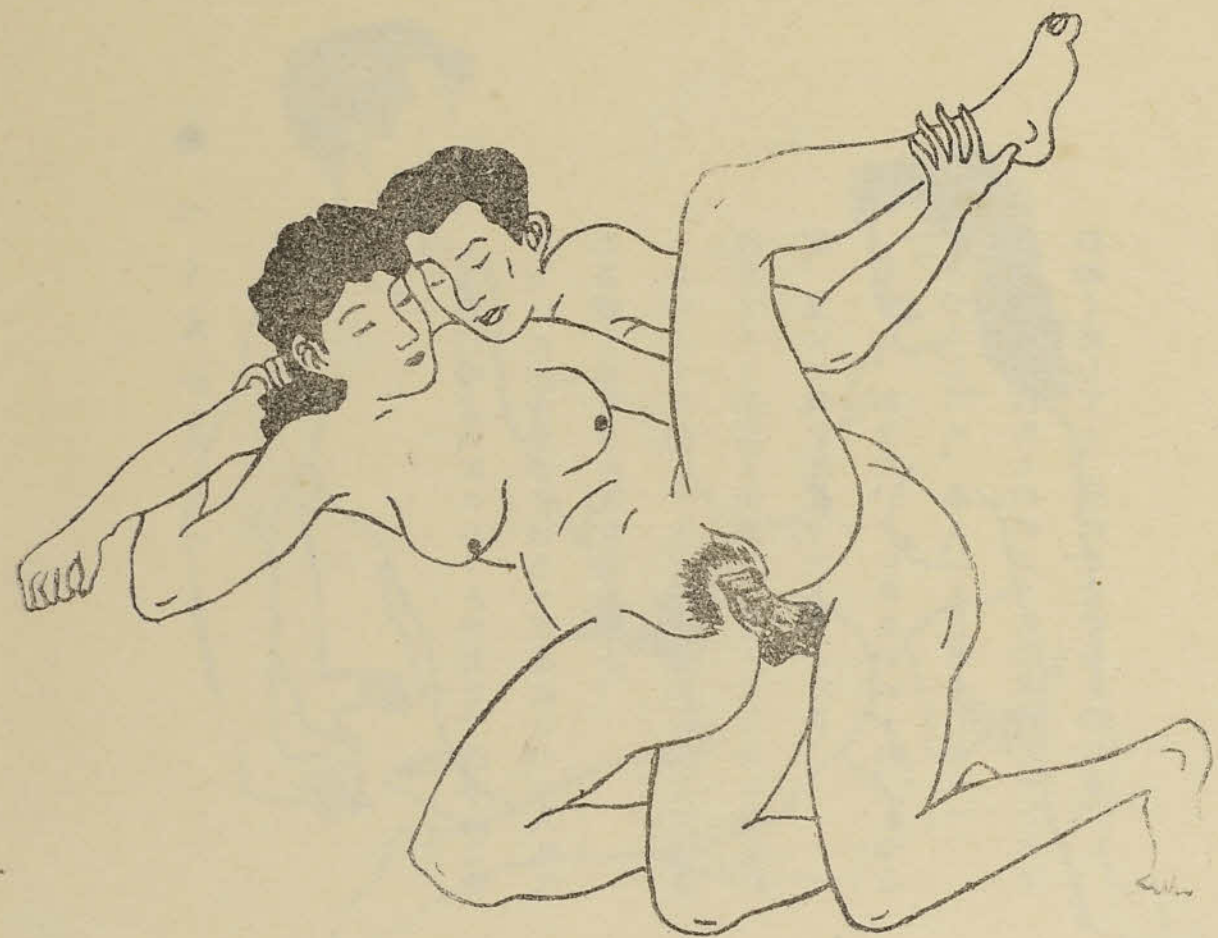
と隣近所にひびく大声をあげて二度も三度も連続にきをやり、うつかりしていると眼を廻してしまふ程のよがり方をするものなり。



● 一本脊負い

女は男を一本背負ひのし勢にて逞ましい男の身体を引きつけると男は女の左足を片手で充分に上方にあげて大きく股をひらかせ、後ろから馬のように太いのを抜けないように気をつけてズボ／＼と激しく抜き蹴しする。

この場合、前に大きな姿見を置き、淫水の流れる陰門へ太い男根出たり没したりする様を写して見ながらすれば、一し勁淫情を昂め快感は一層痛烈となり、何度もきをやること必至なり。

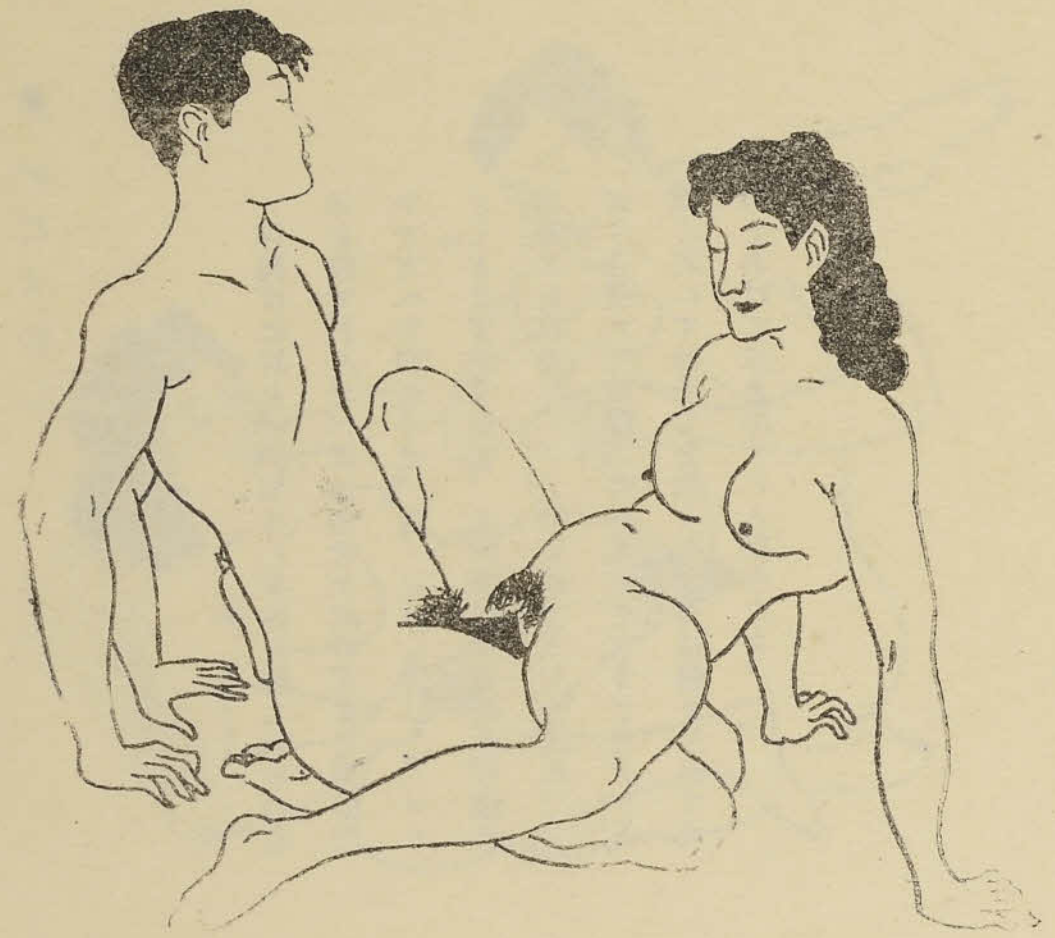


居茶臼のようにスルリと根元まで滑り込ませ
て互いに両手をつき後ろへ反身になつて入れて
ゐる様を見ながら抜き差しする。

このように見ながらするときには男女の慾情
はますます昂ぶり快感も一層よくなるものなれ
ば、互いに我を忘れウツトリとなり、

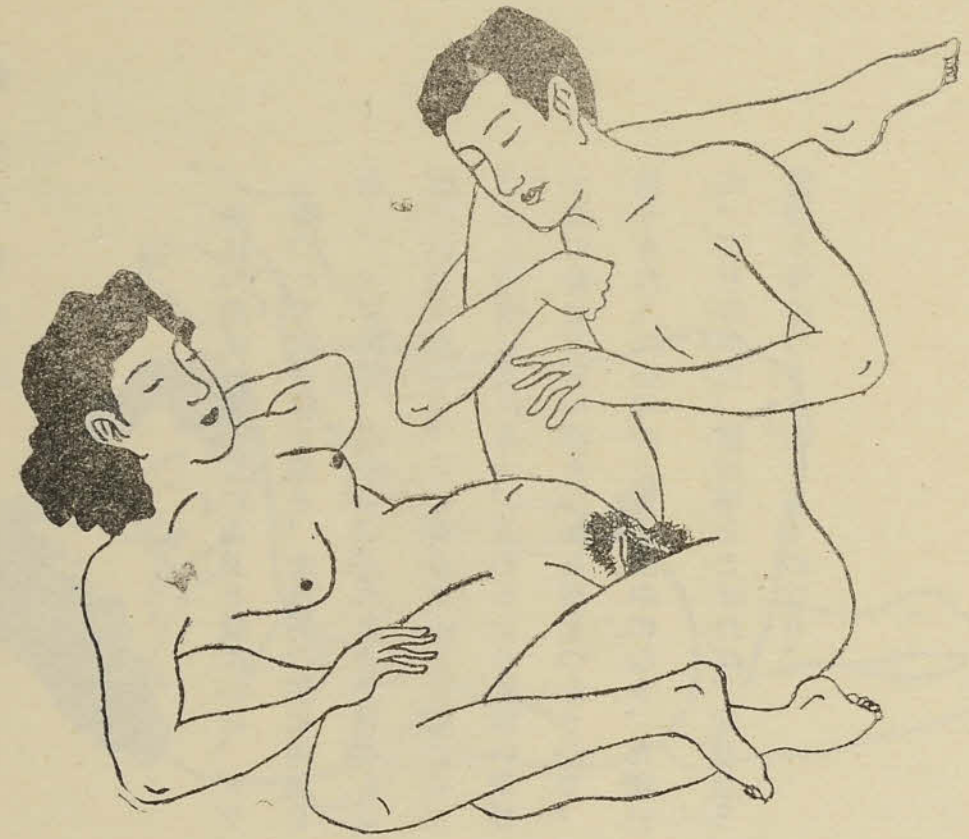
「アレ、あなた、ソレそこがいゝわ、もつと
きつくしてエ、あゝ、もうどうしよう」

と女は憑かれたもののようになり臀をゼンマイ
の如く廻して十二分にきをやるものなり。



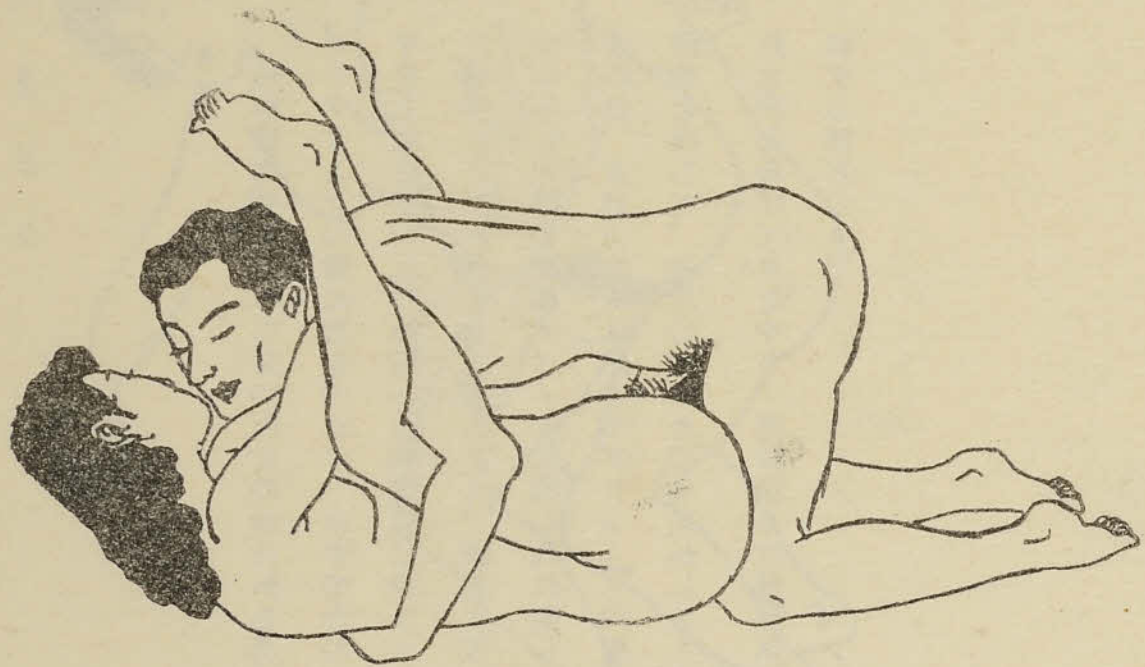
● かたすかし

仰向けに肘をついて少し身体を起した女の右足を股で挟んで、肩に乗せた女の左足を男の左手で支へて引きつけ、雁 だけ入れてチヨコく／＼とこすりまわし、女の陰門から淫水の溢れ出るのを機会にズブル／＼と根元まで押入れ、ズボリと抜いては陰門の口元をこすりまたグツと深く入れては子宮を突くと、女は耐りかねて大声をあげて泣き出すこと請合なり。

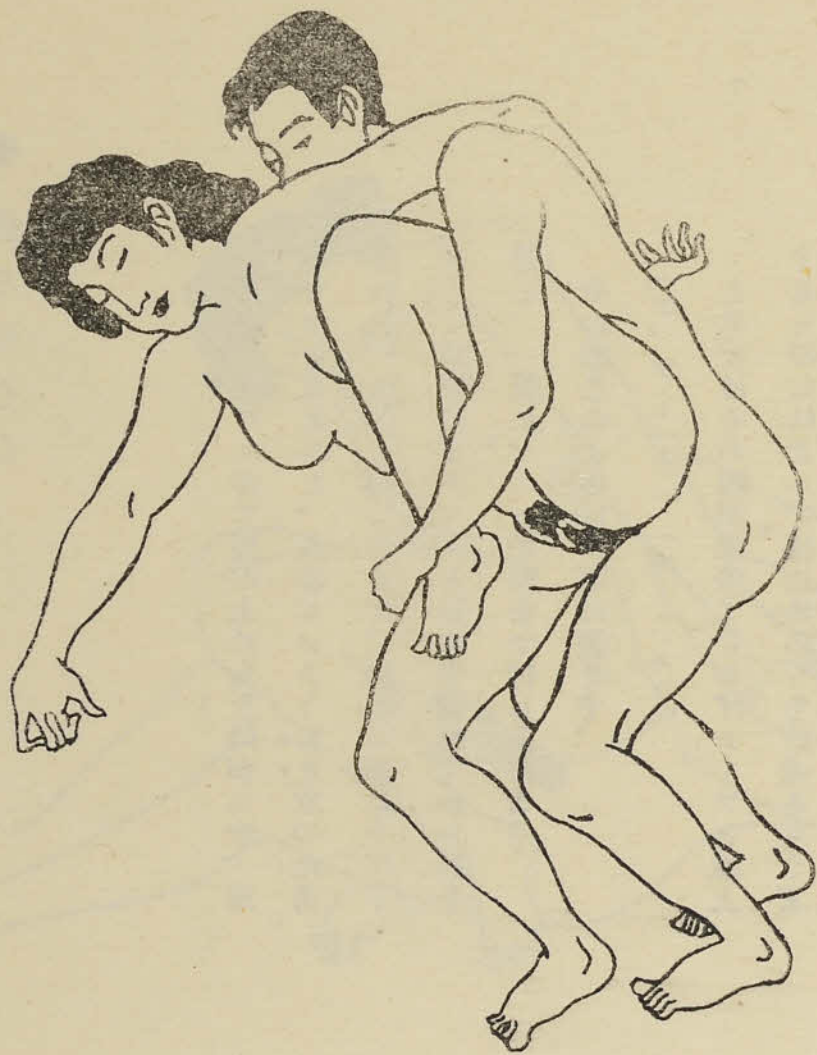


● かつぎあい

男は仰向けに寝た女の両足を肩にかけ、グツと押つけて女の背を抱き、女は男の頸に両腕を巻いて体を曲げ、出来るだけ大きく股を開くと陰門が水平になる。その肉づきのよい陰門にズブリと男根を入れると、舐めるように吸い受けて女は臀を左右に揺りながら腰をつかうので、男もその入れ心地のよさに夢中になり、九深三浅、左右のひだ、陰核等をこすれば、女は忽ち前後不覚になりきをやるものなり。



柱か壁に身を支へて立つた女の後ろから男は
ピッタリと女の臀に腹をつけて、片手で女の左
手を上にあげ、肛門の間から湯気の立つような
大陽物をグツと根元まで押入れて、腰をよぢら
せながら大腰小腰にヌイ／＼と出し入れ激しく
すれば、女はとてもよがつてダラ／＼と内股に
淫水を流して、全身でもがきつつ恥かしさも忘
れ大声をあげてきをやり、男は隣り近所へ気兼
ねするほどなり。



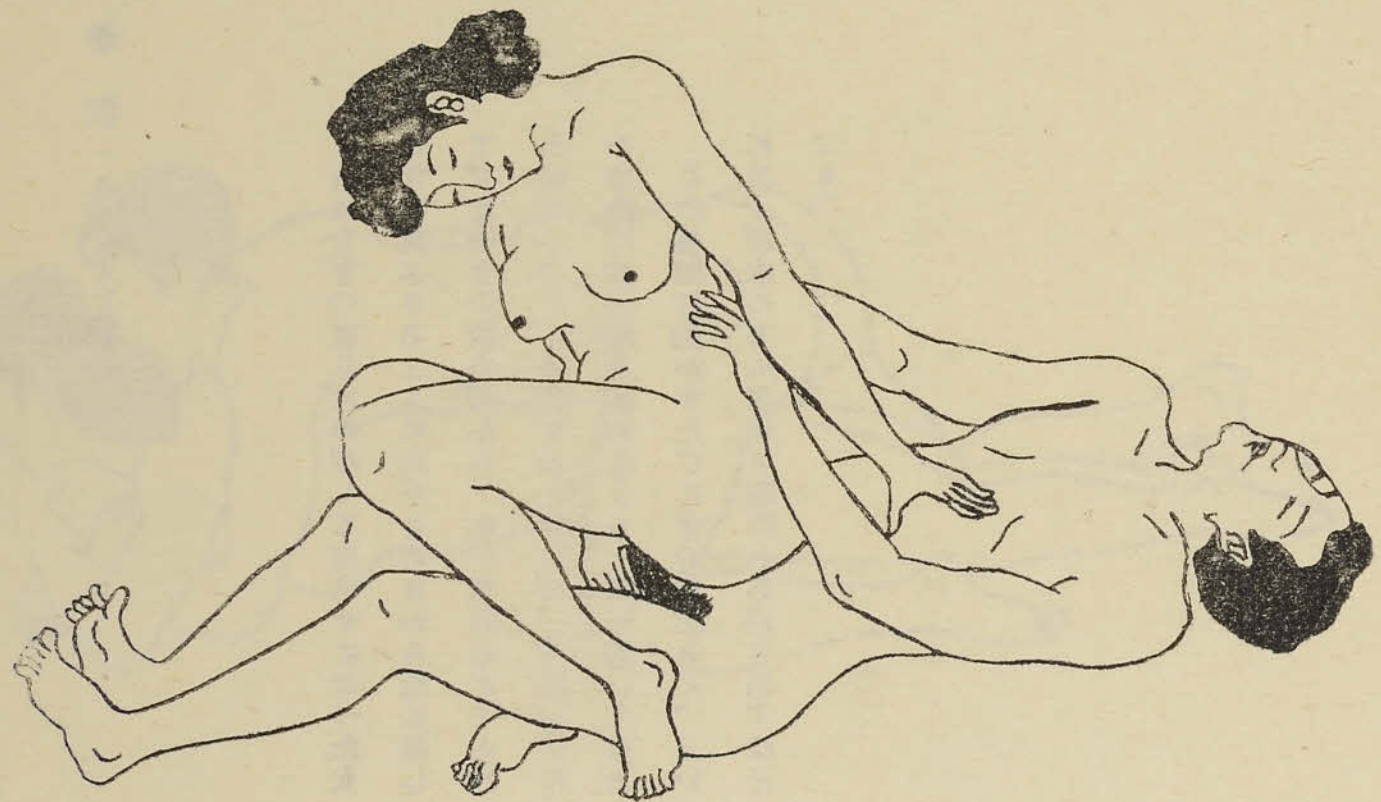
● 後ろやぐら

男は仰向けに寝て腹の上に女を跨がらせ、両手で女を支えると、女はピンクにおえ立つた男根の上に陰門を押しかぶせ、静かに腰を上げ下げして竜頭がヌルくと淫水で濡れてから腰を落し、一気にグツと毛際まで押し入れる。

その感じのよさは口筆に盡せず、

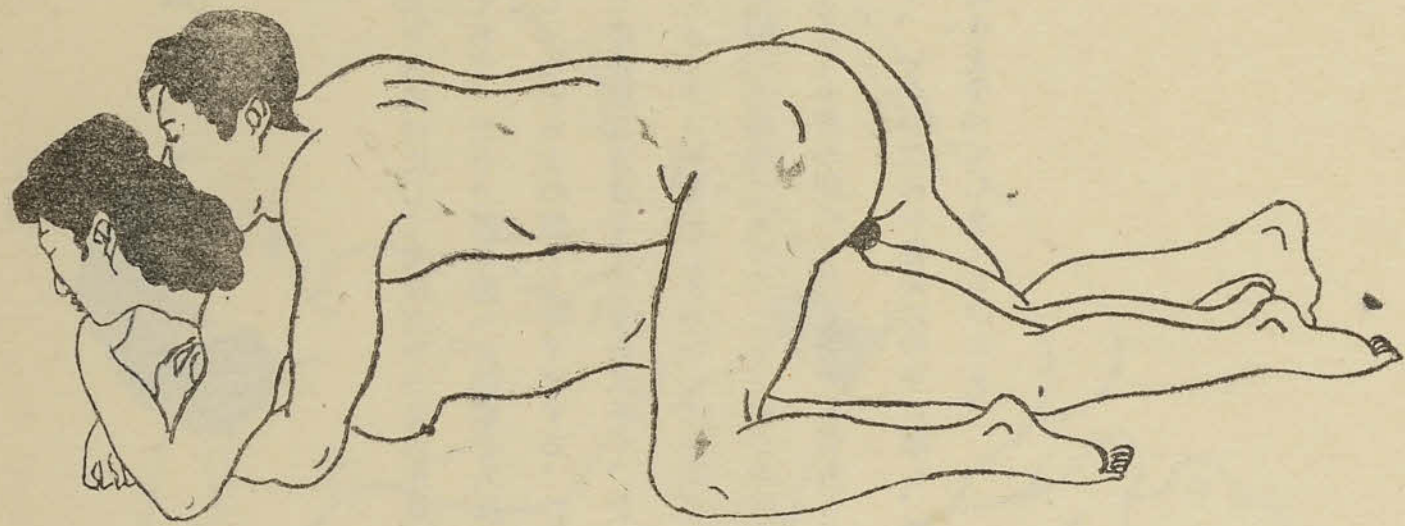
「ア、ア……ッ」「ウ……ムッ」

と男女はその瞬間悲鳴？をあげカーツと逆上するものなれども、はじめのうちは成る可く互いに調子をとつて腰をつかふべし。



● 敷き小股

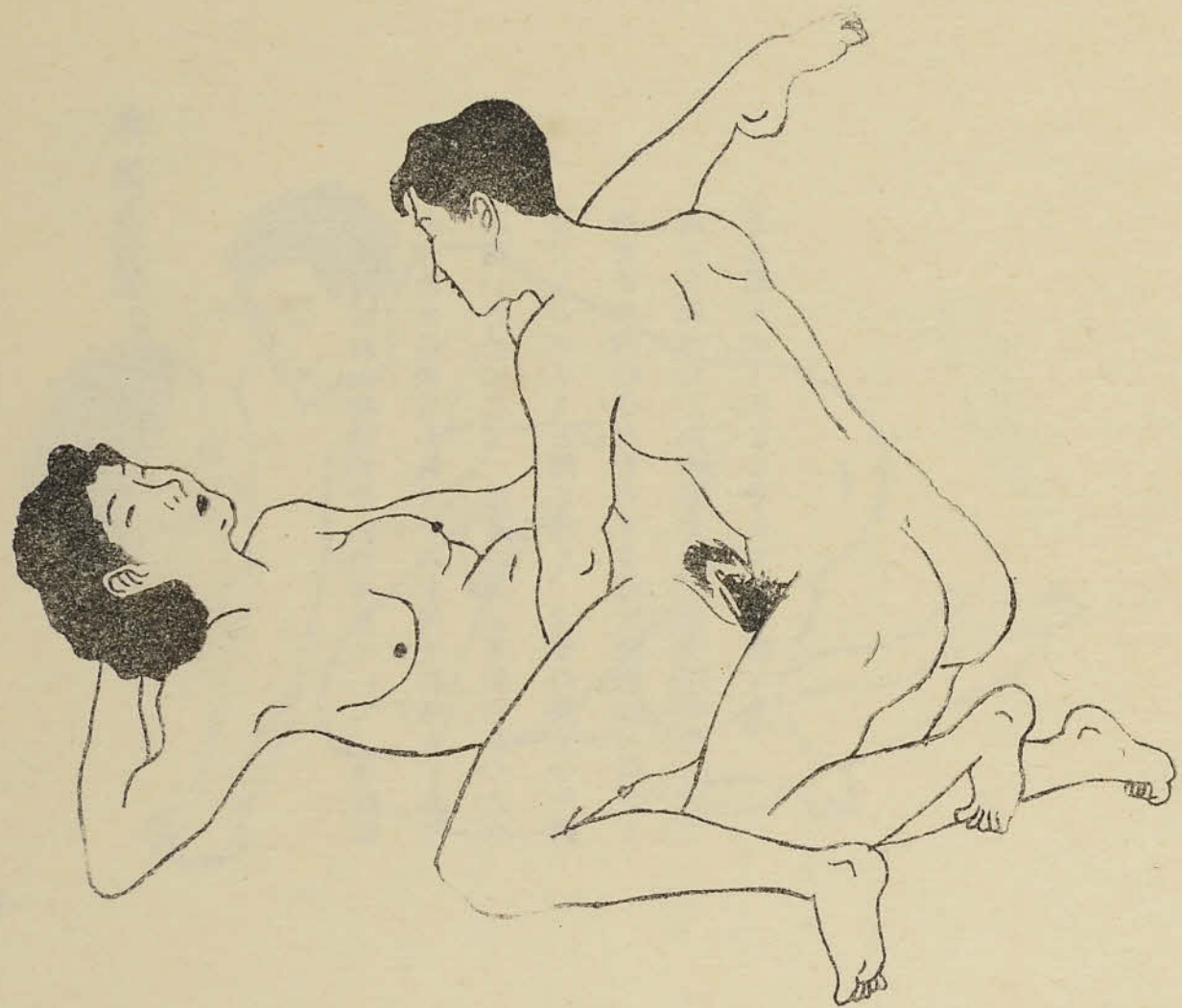
両足をまっ直ぐにのばして俯伏せになつた女の背に負ぶさるやうに両手をわきから前に廻して女を抱き小股の間から、太い男根をグイと押入れてムル／＼と抜き差しすれば、内腿をすぼめた陰門は男根を舐めるやうに吸い着いて来るこの感触は動かすたびに骨身に泌みて、互いに流す淫水の為に男根も陰門から浮き出すほどなり。



● きぬかつぎ

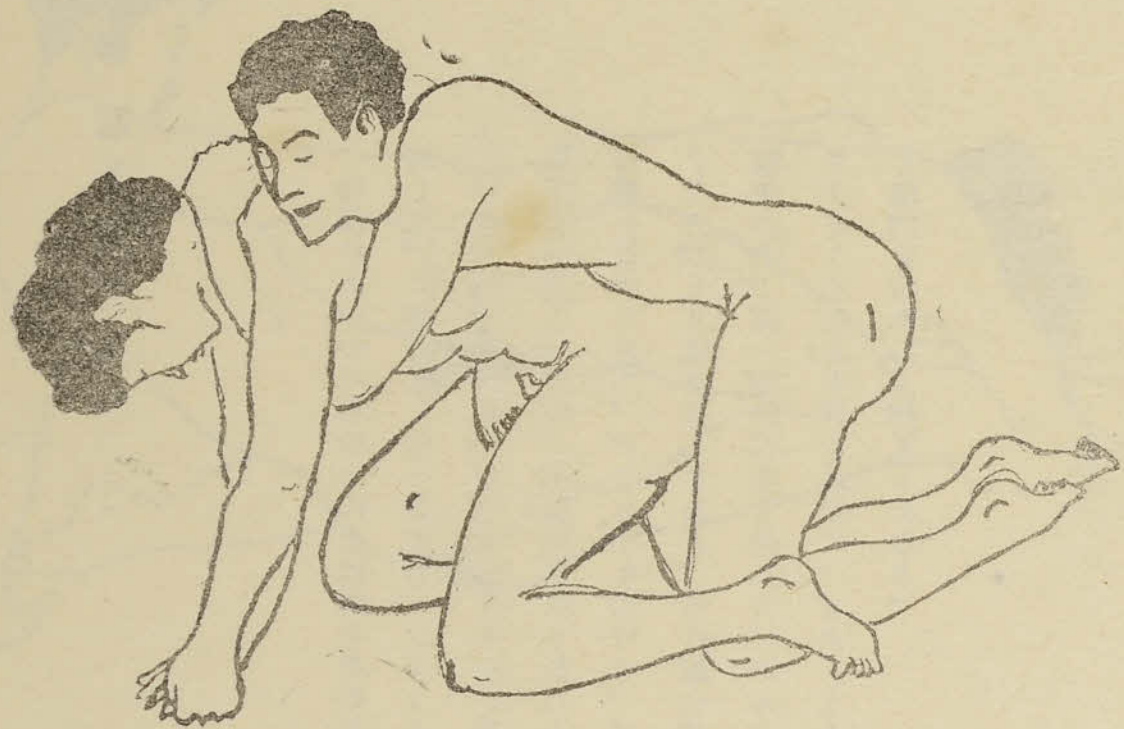
女を仰向けにして男は右手で女の片足を宙に高くあげ、左手で腰を抱へて男根を入れ、抜き差ししながら女の臀を上げ下げする。

この姿態は強姦などの場合に多く、女はやるまいとしても顔を見られるから眼を閉じると、自然陰門の感触に気がついて、いつの間にか快ろよくなり眉の間にシワを寄せながらも身置えして、いつの間にか臀のの字に廻し、夢現で遂にきをやつてしまうものなり。



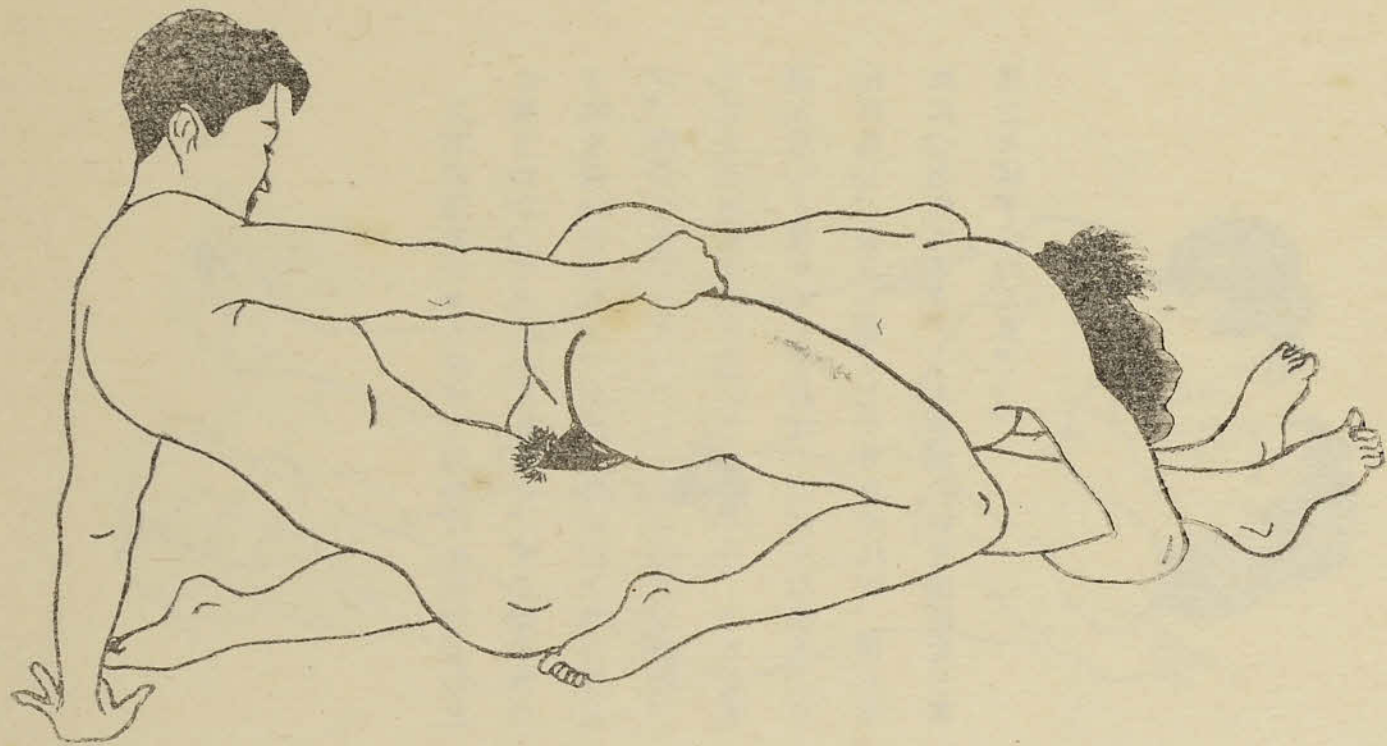
● 鶴の羽搔ひじめ

積み重ねた蒲団か何かに手をついて、中腰になつた女の後ろから太いのを押入れると、女を羽搔いじめにして、総身の力を男根にあつめスカ／＼ゴボ／＼と深く浅く、青筋の盛上つた胴中でチツ内のひだをこすり廻す感触は、何とも彼とも云へたものに非ず、女を半死半生にして息も絶え／＼にきをやらせる秘術なり。



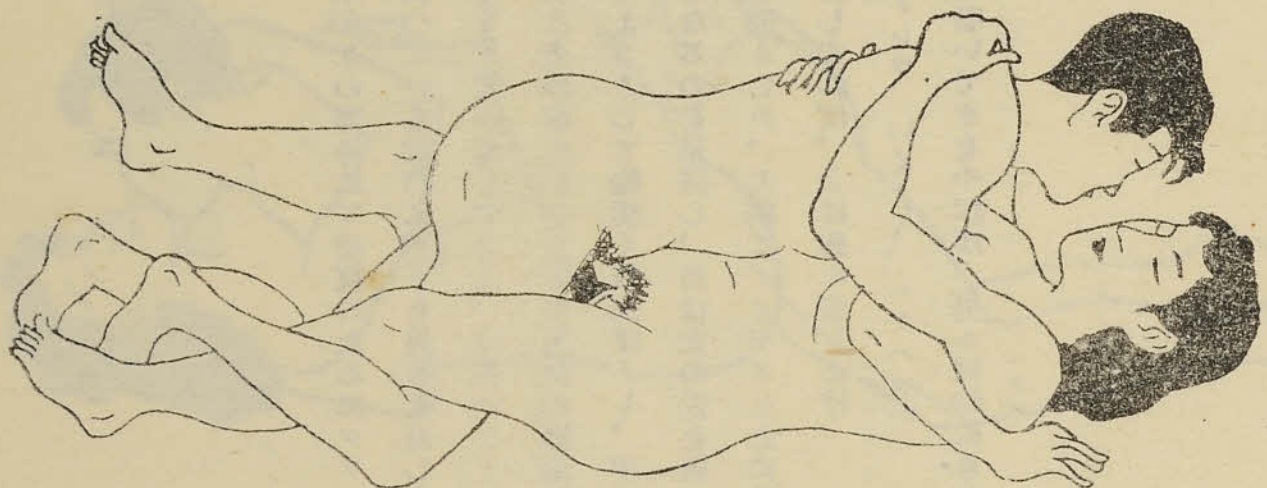
● 送り手がらめ

仰向けになつた男の上に女は頭を男の足の方にして、両手で足を抱へながらピン〜とおえ切つた男根に陰門をかぶせて腰をつかい徐々に根元まで這入つた時、男は半ば体をおこして女の腰を両手に持ち、グツと引きつけて、プスリ〜と烈しく抜き差しすると、女は耐らず男の陰毛から下腹一面に淫水を流して、ヌル〜ピチャ〜とよがり声をあげて、ピク〜と大きく陰門を痺れんさせるものなり。



● かもたれ

左右の腿を大きく展げて仰向けに寝た女の上
に乗りかかつて男根を入れると、すぐ抱き合つ
て舌を吸い合い乍ら、上から押せば下から持上
げ、調子を合わせダン／＼よくなつて来た時、
男は女の足に片足を巻いて締めつけ、ここを先
途と烈しく抜き差しすれば、女はその快ろよさ
に取乱し、鼻息を荒くしてきをやれば、男もそ
れにつられてドク／＼と熱湯の如き精液を子宮
までとばすものなり。

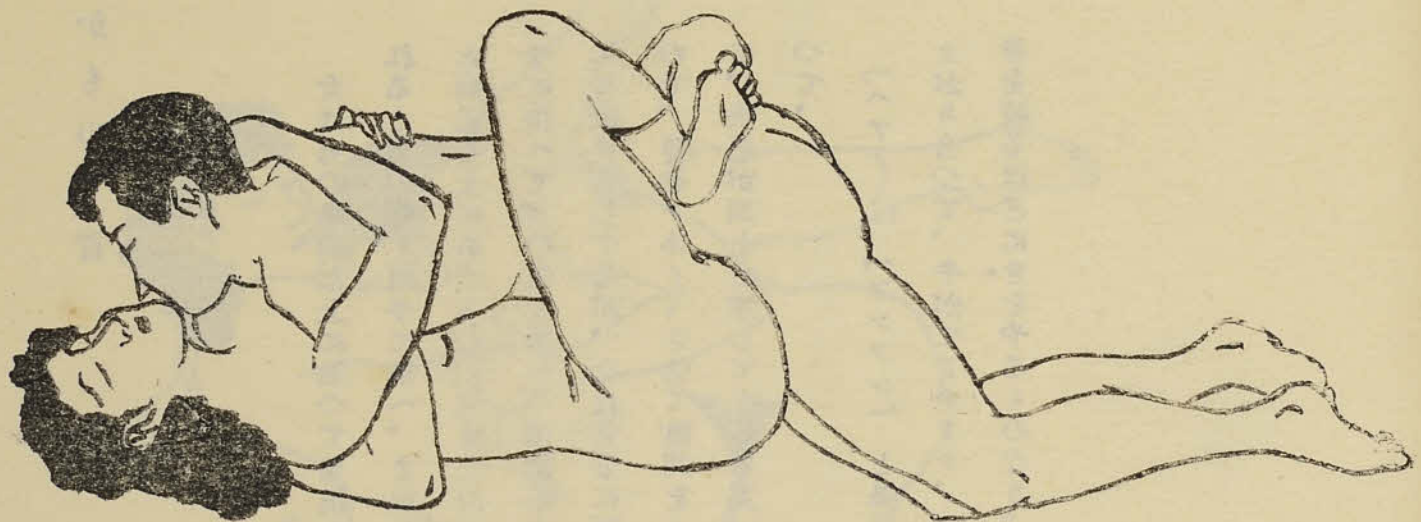


● 足からみ

本どりの姿勢にて前技のためにシットリと濡れ潤つている陰門にグツと男根を差し入れ、スカ／＼と抜き差しすると、女はいよ／＼興奮し両足を男の胴にからませて男根の雁先を子宮へ当てようとして物凄く持上げ／＼、半狂乱のようになるのを見済し、男は女の舌を吸つて力の限り抱きしめ、大腰にグイグイと急に激しく抜き差しすれば、女は遂に音をあげ、

「アレツ　いく／＼、ハッハッ」

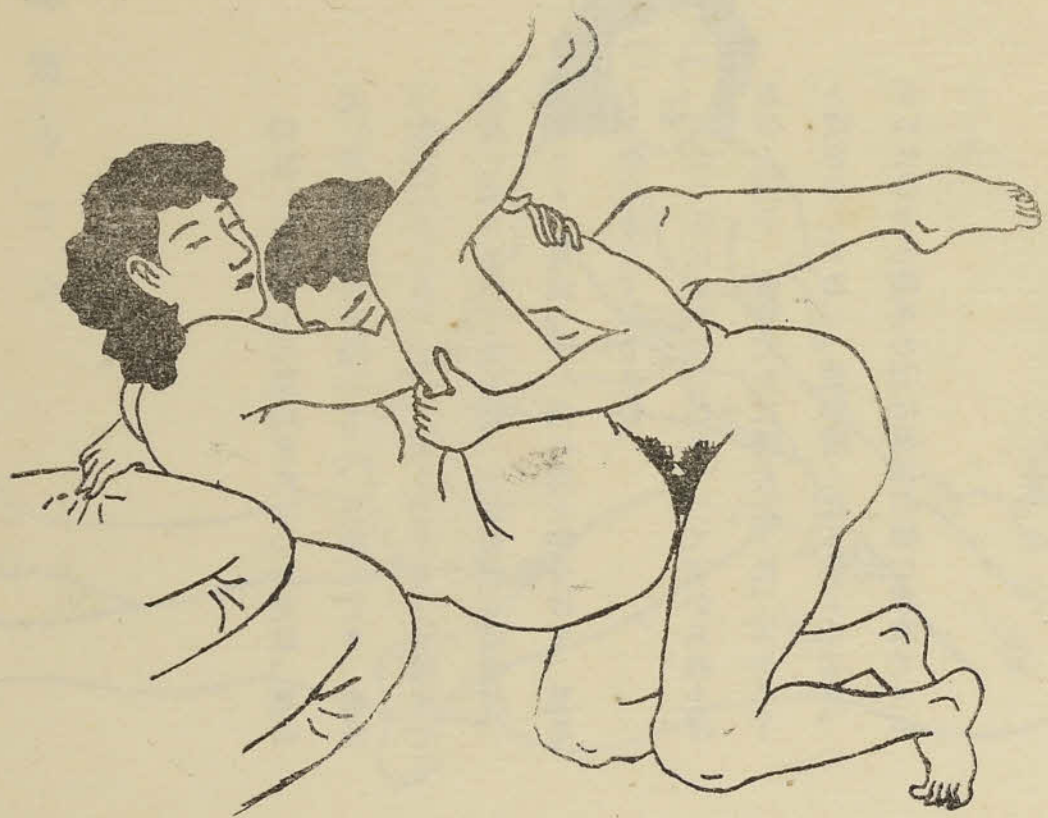
と喘いできをやれば、男も同時にきをやるべし。



● かも の 入 首

女は男の坐つた上に乗つて男根を一杯に押入
れると男の頬を両手に抱へ、またを展げてグツ
と両足を上にあげると、男は女の太腿を左右の
手に抱へて女の乳を吸い、所謂かも入首の形
にて抜き差しするが、女は充分に腰をつかへぬ
ので、臀をクネ／＼させて陰門をくねかへす中
に、快感が頂上に達して来ると互いに夢中にな
つて、

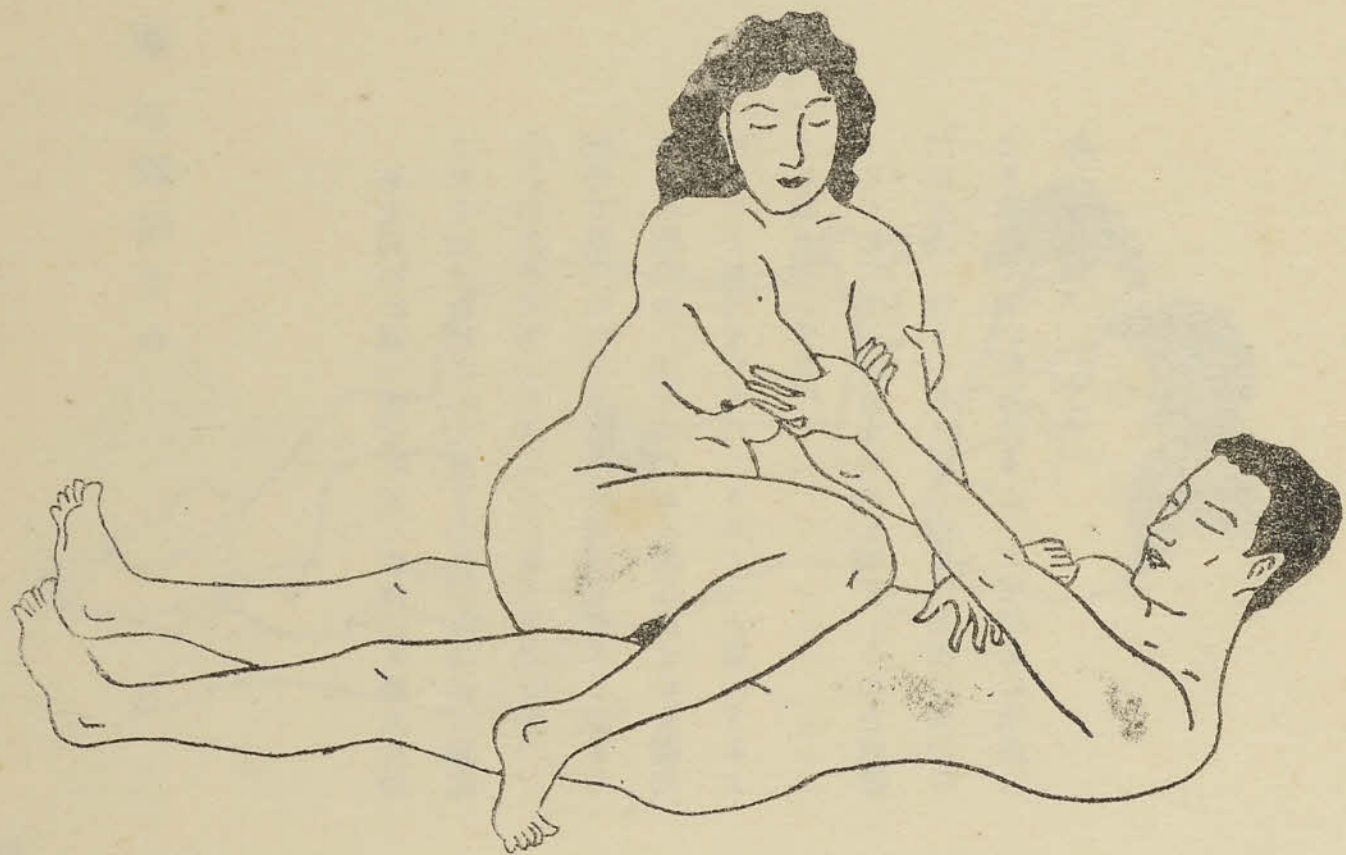
「ハア／＼」「フンファン」と鼻息もせわしく
よがり合つて、やがてドクドク、ビクビクと全
身を絞るほどにきをやるものなり。



● 腹やぐら

仰臥した男の上に馬跨ぎになつた女は、男の太い男根を片手で握つて二、三度しごき、自分で陰核に押しあてて、二すり三すりして淫水で龟头がぬらめいて来た時、上から腰を落せば、クリクリと龟头でチツ内の肉を押し分けて、見る／＼根元まですべり込む。

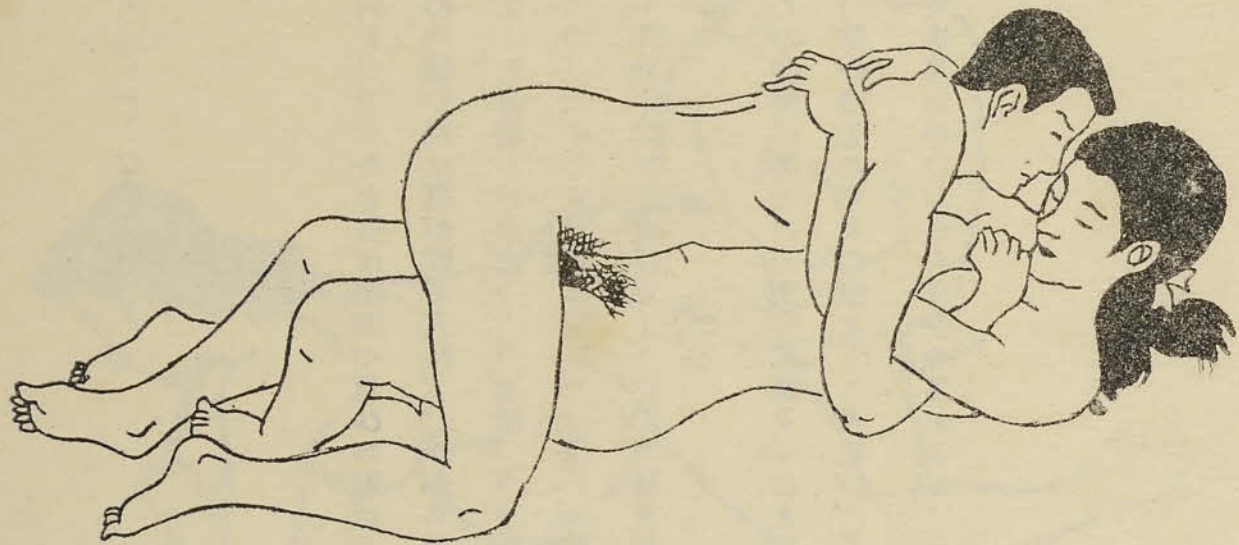
そこで男は女の腕をひきつけて下から持上げるのと調子 合せて女は腰を上下に、ズボ／＼と抜き差しすると、気が遠くなる程よくなり、互いに陰毛と陰毛の間は葛湯の様な淫水でヌル／＼。



● 小股はさみ

あを向けに真つ直ぐに足^ののばして寝た女の
またをはさむ様にして乗りかかつた男は、勃起
した男根に片手を持ち添えて陰毛を掻き分け、
雁先で陰門の口もとと陰核の辺りをこすり廻すう
ち女の陰門から淫水滝の如く流れ出すのを機会
にグツと根元まで入れてズボ／＼と音のするよ
うに抜き差しする。

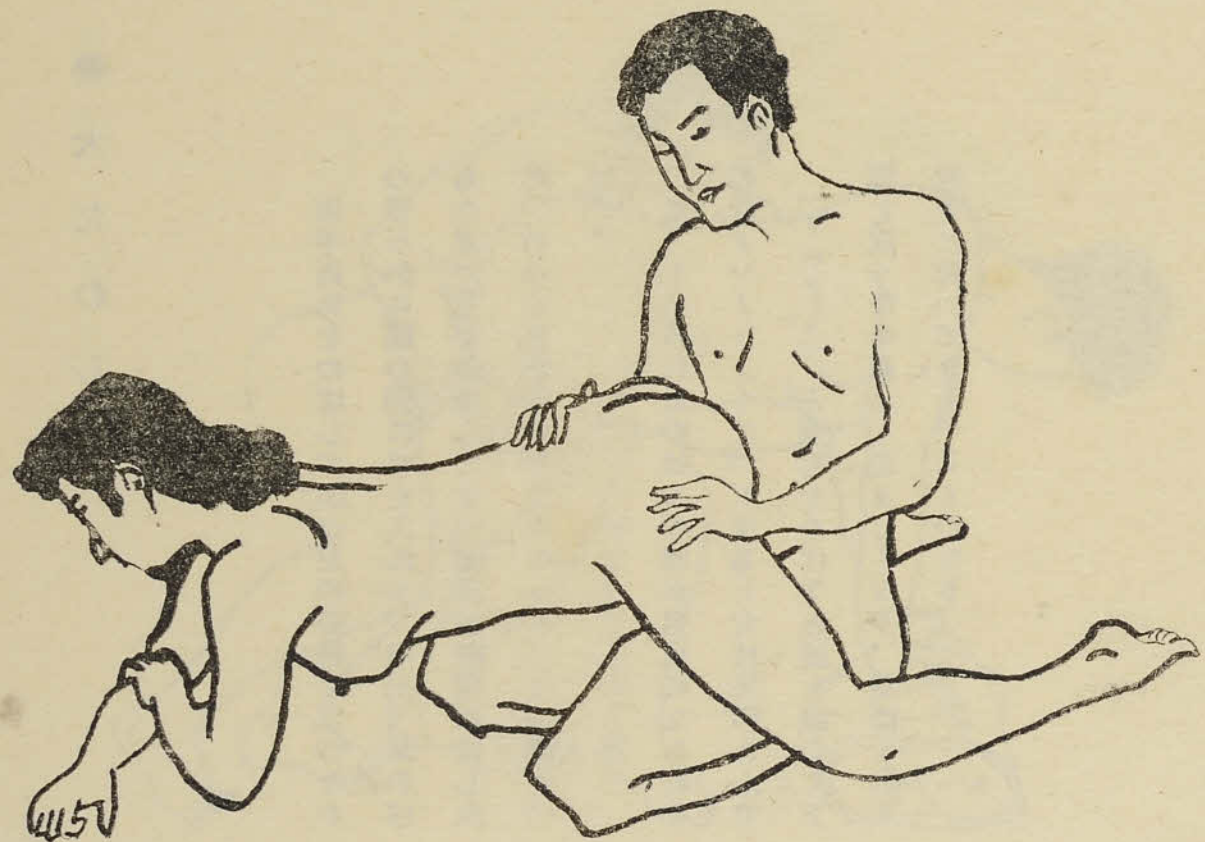
こうしてする時は女の足を揃えていること故陰
門はせまくなり、抜き差しの度に男根は弾力の
ある陰門で喰い切られるようにて双方の快感云
わん方なし。



◎ 下手やぐら

肘をつきまたを展げて四つ這ひの形になつた
女の内腿の間に男が腿を入れて、下から松の幹
のように勃起した男根をのぞませ、ヤワくど
陰門の口元をこすり乍ら根元まで這入つたとこ
ろで陰唇を両手で展げるようにして抜き差しす
べし。

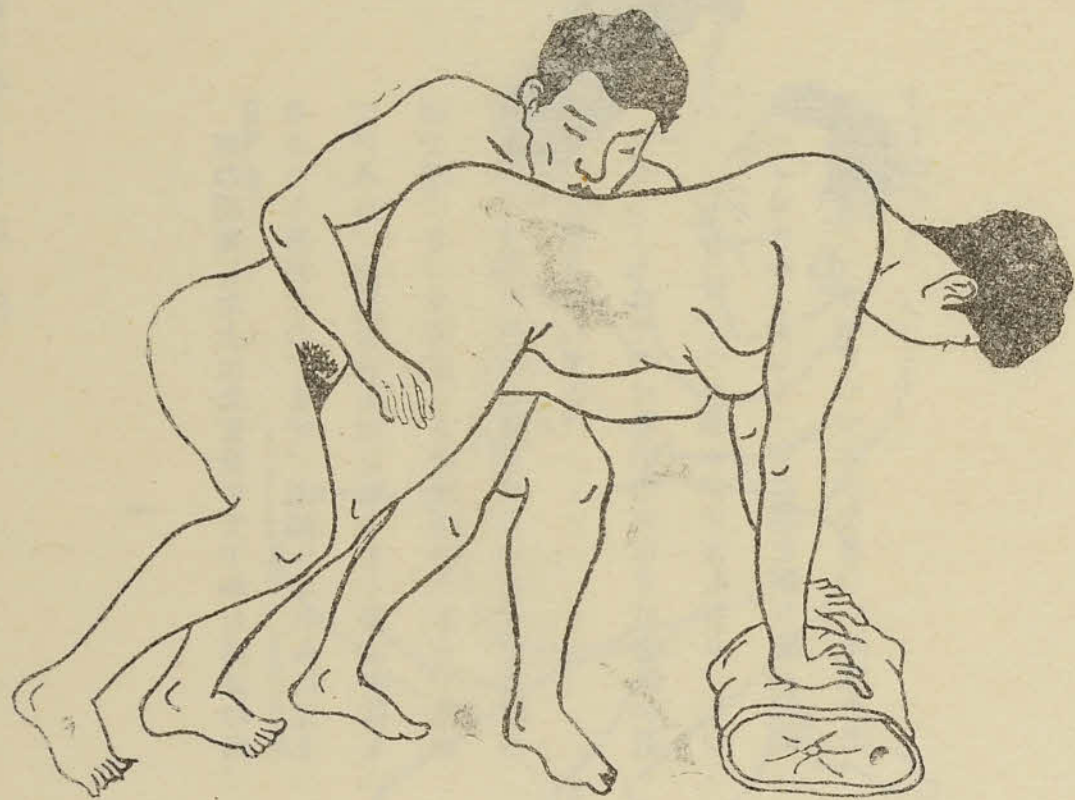
この姿勢は男女とも充分に腰をつかえぬもの
故、男の指先にて女の悦ぶところをいじくり廻
して快感を扶けながらきをやるがよし。



● 大 た わ し

両手両足をのばして四つ足の姿勢になつた女の後ろから腿の間に手を入れて、指先、掌のびらなどで充分愛撫して女の興奮が絶頂に達した時、徐ろに男根をのぞませてユル〜と腰をつかう。

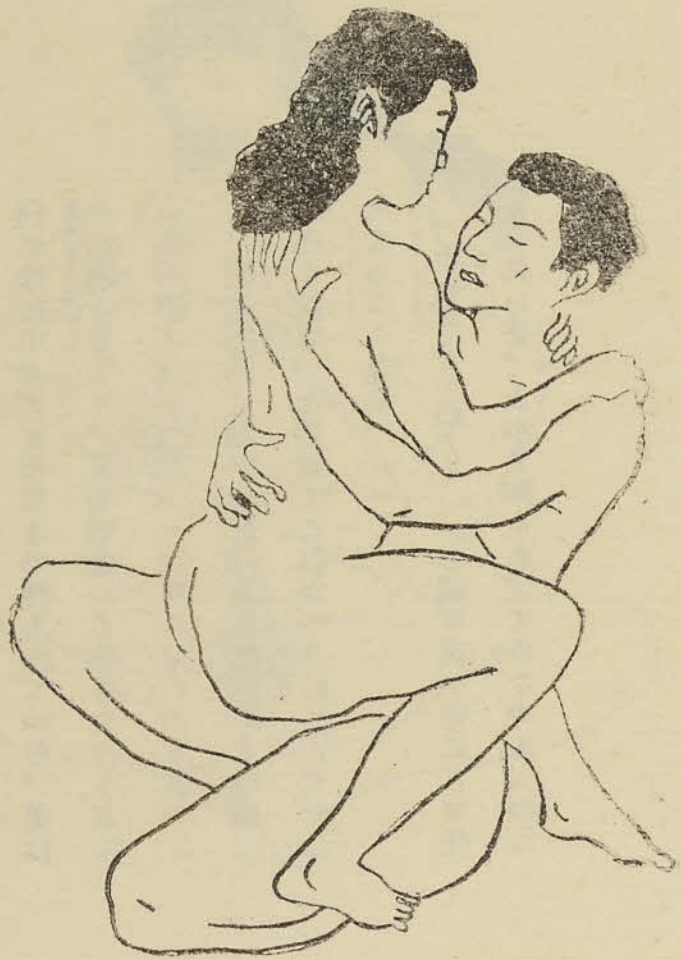
こうして入れたのは女の腰が自由にならぬもの故ダン〜よくなつて来ると女は焦れこんで「アレ〜」と悲鳴をあげ乍ら腰を振つて下腹を波うたせ鼻息も荒々しくなり、果はよがり泣きに泣いてきをやるものなり。



◎ 坐り茶臼

男の胡座した上に女を乗せて下から湯気の出るような男根をのぞませ、加減しながら根元まで押入れ、両腕で男の頸を巻きにくる女の体を撫で擦すり、充分に女を興奮させてから、その胸としりを抱へ容赦なく臍の下へこすりあげスカク、と抜き差しする。

こうして入れたのは陰門の穴なりに男根が這入るもの故、張切つた雁先が子宮に当り、その快るよさ云わん方なく、女は眼を瞑り顔仰向け、ハツ／＼と喘ぎつつおびただしい淫水を出すものなり。



● 茶臼まわし

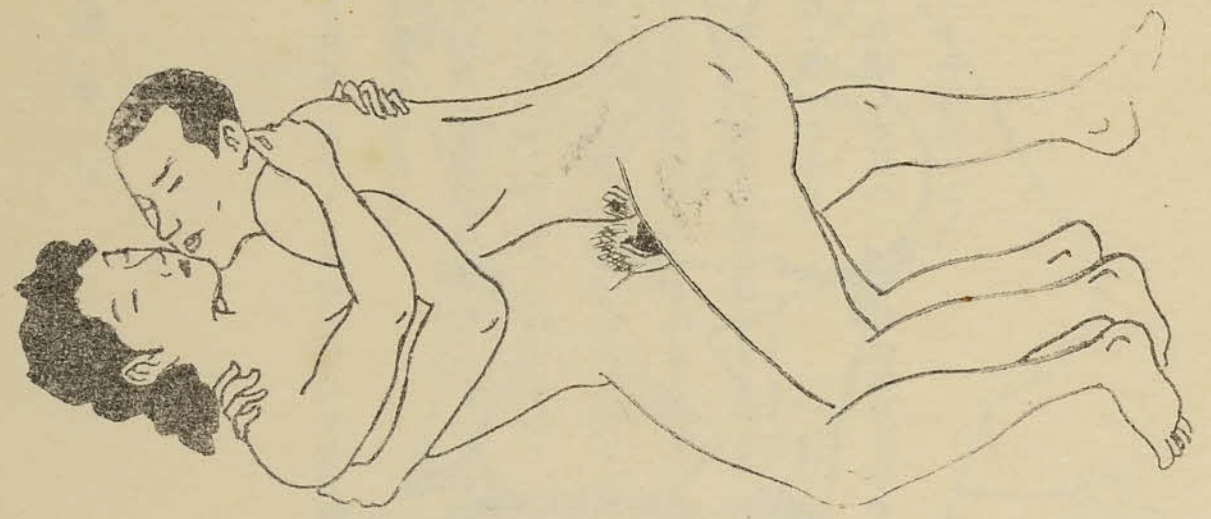
男は胡坐をした上に女を後ろ向きに乗せ、茶臼にはめてグツと根元まで押入れてから、男は女の腿をそろへ、両手で抱いて締めつけながら大腰に抜き差しして、その度に女の体を廻すように左右に振り動かせば、女の陰門の中は雁高な節くれ立つた男根にこねかへされるので女はたまらなくなり、

「ああっいゝわく」と顔を真っ赤にして体をくねらせ、よがり声をあげてきをやるものなり。



● 本 どり

女は下になり男は上になつて行なふ標準型で
これが性交姿態の原則になつてゐるが、女は男
の頸に腕を巻きつけ、男はわきの下から力一ぱ
いに女を抱いて、勃起した男根をチツ内に押入
れ、男は腰を上下に、女は下から持上げて調子
を合わせながら、精根をこめて互ひに相手を悦
ばせるやうに努め、秘術をつくして行なふもの
なり。



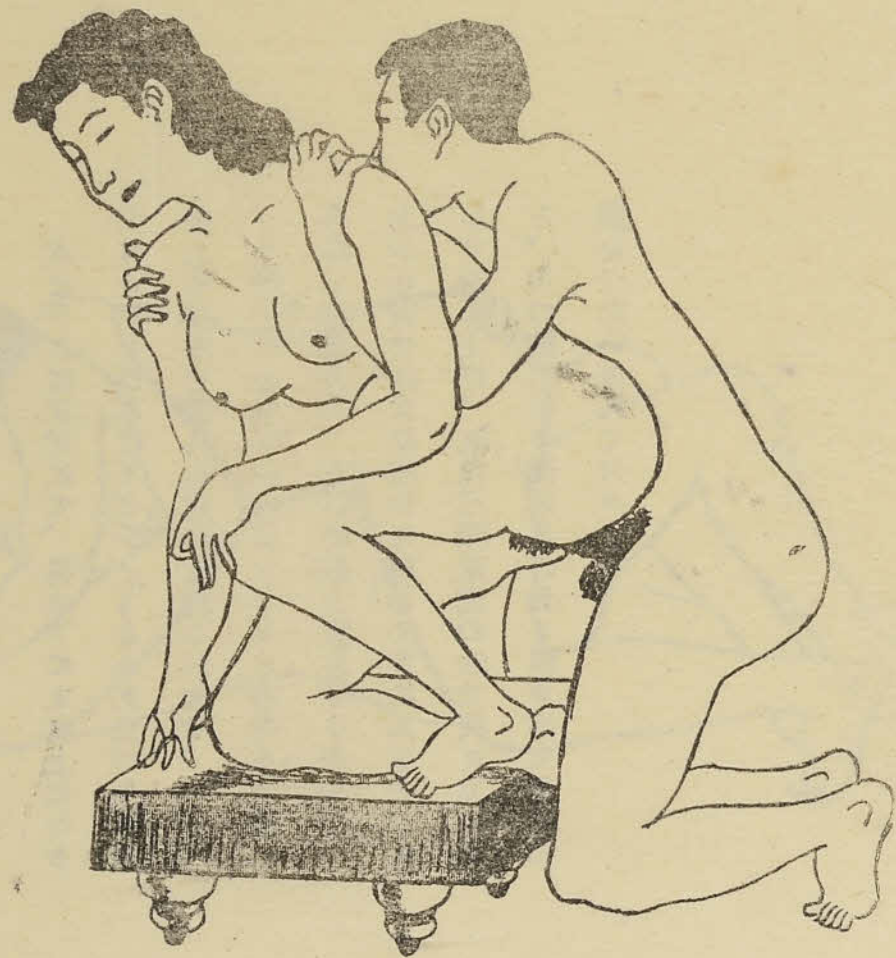
● 碁盤 ぜ め

これはいろ／＼と性交を行つた上で戯むれにする曲どりである。

図の如く碁盤の上になぐりまつた女の後ろから男根を入れて行なふものである。

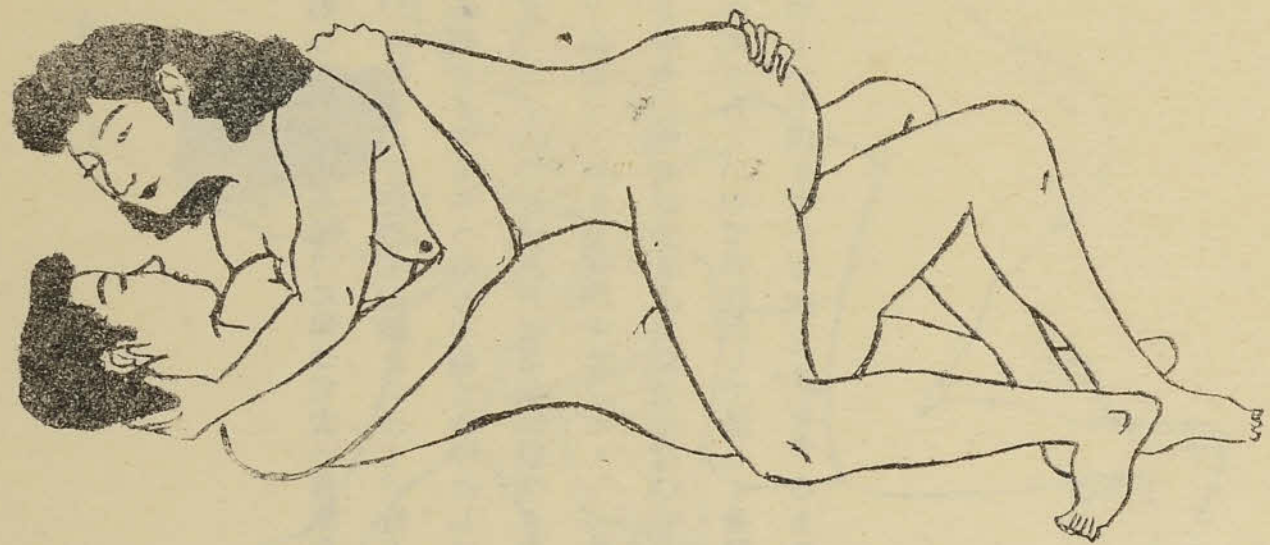
どちらも興奮して夢中になればこそ、こうした不安定な姿勢で行なわれるもので、女が落ちないやうに体を自然と固くするので、男は仲々感じよきものなり。

一見難しく見へて、やれば案外たやすくきやくこと間違いなし。



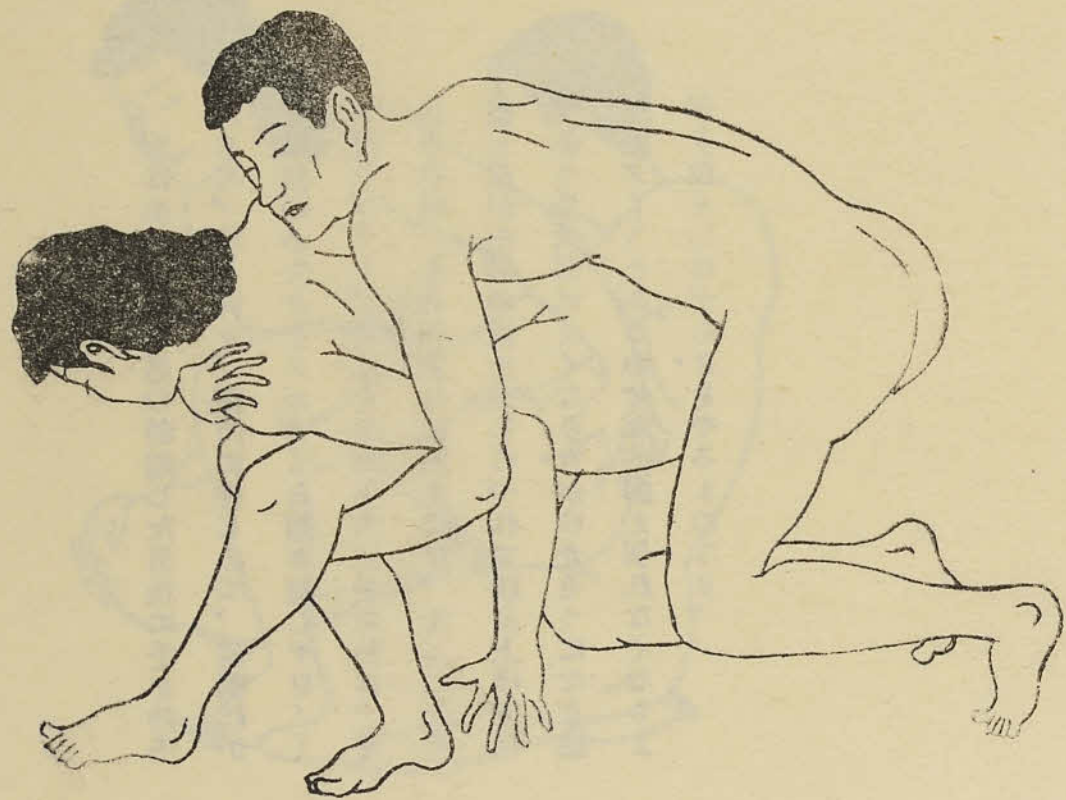
本どりとは反対にて、男は下に女は上になり
女はまたをひろげてピン／＼とおえ立つた男根
の上に淫水で濡れた陰門を押しかぶせ、

小腰をつかひながらガツブリと根元まで押し
入れて抱き合い、互いに肌と肌をすり合せつゝ
上から押せば女は右から廻して左にふるやうに
して持ち上げ、九浅三深竜虎の法で突き立てる
と、女の陰門より淫水泉の如く湧き出て男根の
洞をつたい流れてズキ／＼。



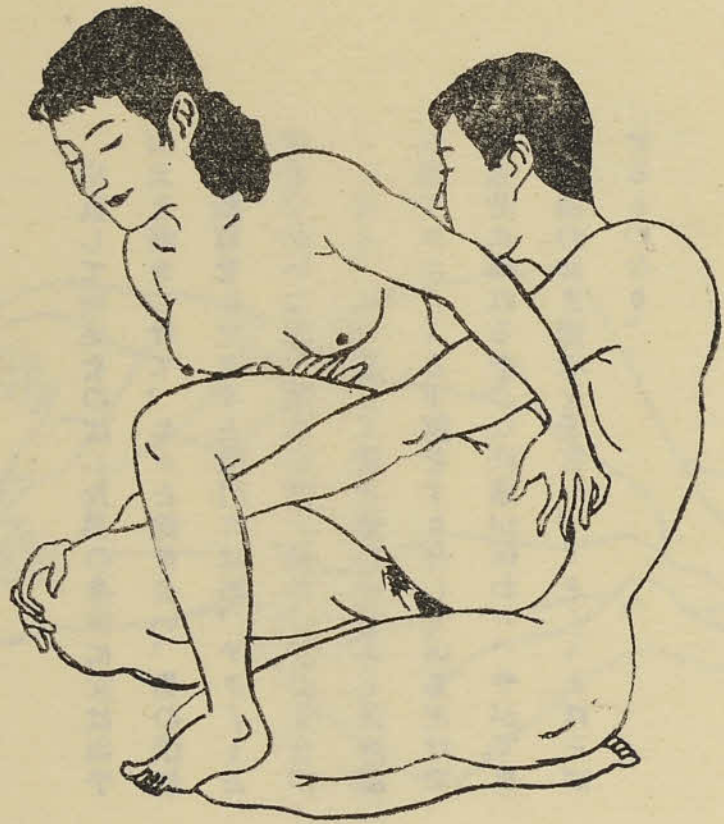
● つきまわし

女のしりの方から陰門に向つて太い男根を押し入れ、女の背にピッタリと胸をつけて、恰も子供に小便をさせるやうな形で抱くやうにして押しつけ、チツ内の前後左右を男根の胴でこすり乍ら、雁先を子宮まで届かせてズボ／＼グチャ／＼と夢中で突き廻せば、女はよくなつても体が自由にならないので焦れ出して激しく身悶え、つつよがり泣きをしながらきをやるものなり。



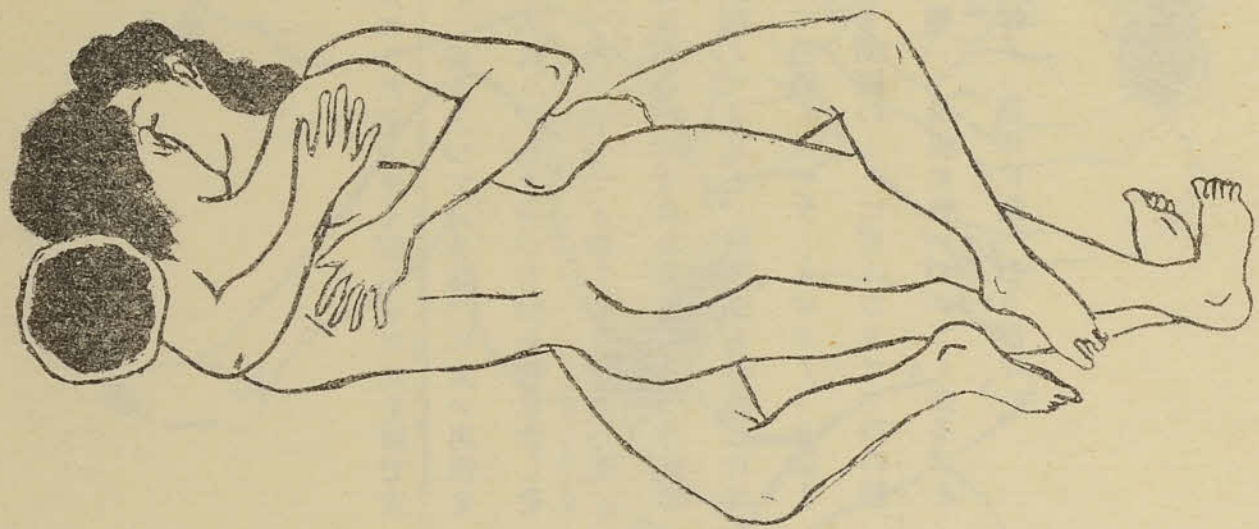
● すくひあげ

女は坐つている男の勃起した男根に手を持ち添えて、後ろ向きに陰門に押しあて、空割れから陰核のあたりをヌル／＼と擦り廻しヤワ／＼と腰を下すと、男は女の両またに手をかけ、女はその腕／＼とらへ互ひに引きつけ、女はしりを廻しながら男の抜き差しにつれて腰を上げ下げするうち次第によくなりきがゆきそうになり陰門ピク／＼とふるわせ遂に耐え切れなくなりよがり泣きしながらきをやるものなり。

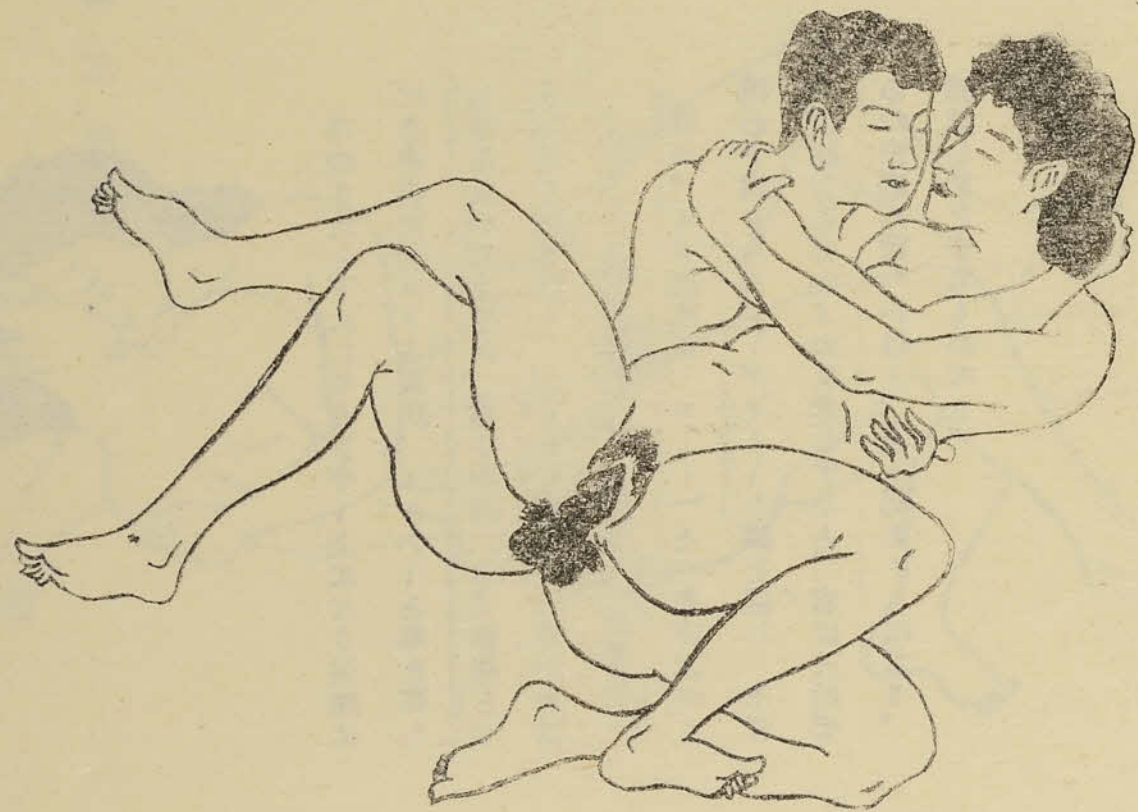


● 矢筈がけ

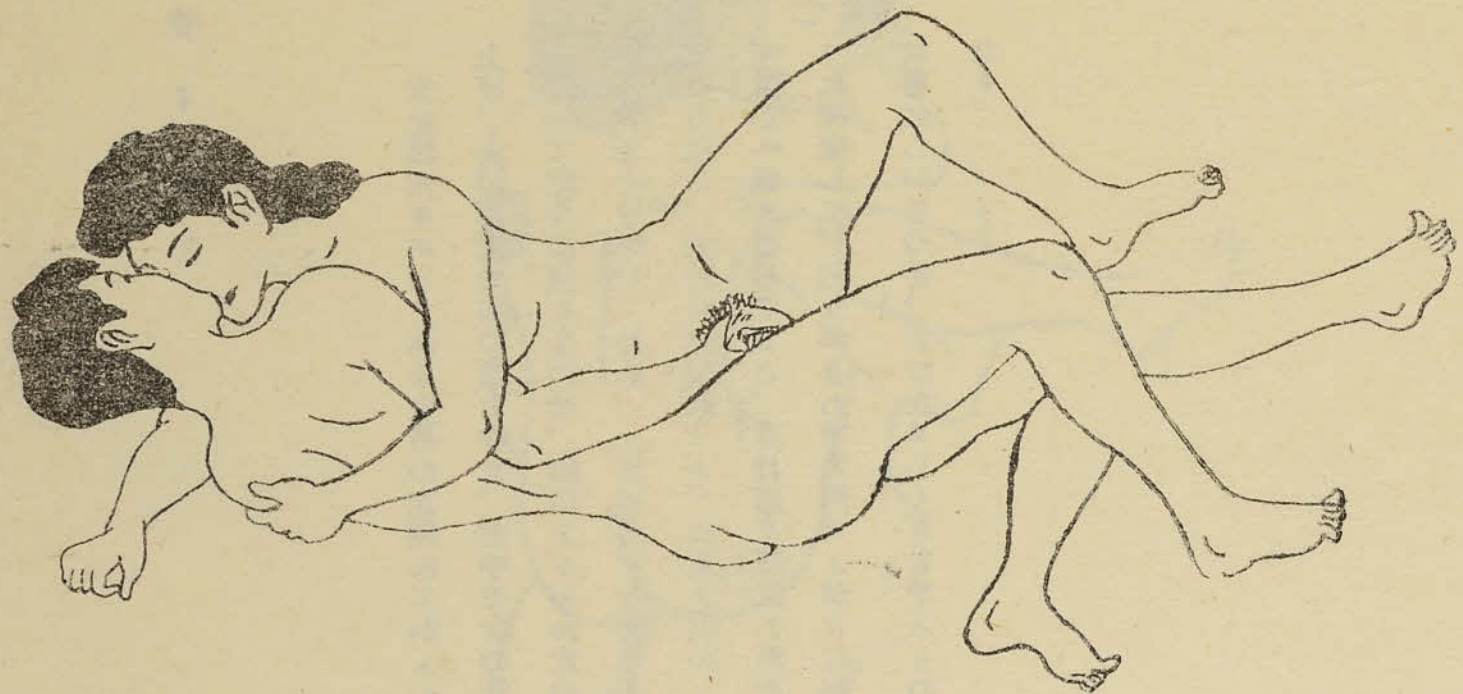
横臥して両足をのばした男の身体に女は両手
両足を巻きつけて、ヒシと抱き合い、男の張切
つた雁首をシツクリと陰門にはめ、チク／＼と
腰をつかいながら互ひに舌を吸ひ、よがり合つ
ていると、もう激しく抜き差しせずとも淫水溢
れ出てヌル／＼と下腹をすり合しているだけで
も全身に痺れるやうな快感が伝わり、やがて男
は熱湯の如き精液を子宮へ、ドク／＼とほとば
せるものなり。



図の如く女にまたを大きく開かせた足を膝で支え、後ろから盛り上っている陰門に太い男根をグツと押し入れ、抱き合いながら抜き差しをして舌を吸つたり頬をすり合したり、女の乳を吸つたり出来得るだけ互ひに愛撫し合う中快感が次第に高潮して来ると、陰門から淫水したたかに溢れ出て鳴音もグチャ／＼ゴボ／＼と惱ましく、陰核も胡桜のように固くなりチツ内の筋肉 弾力が増し男根に吸いついてく来る。そうなると男はもう絶体に耐へやうがない。



男のまたを下にして女をやゝ上になり気味に
だき男根をソロリと入れ、ユル／＼とぬき棄し
し乍ら女の舌を吸ひ、右手の指二本で陰核をつ
まんだり撫でたりしてくぢり廻していると女は
「あゝもう耐らなくなつて来たワ、勘忍して
ねエ、もう勘忍してエ……」と泣き叫ぶのも
構わず尙もスカ／＼グイ／＼と腰を廻し 子宮
も破れよとばかりぬき差しすると、右は三所ぜ
めの快感に耐へかねて、息も絶え／＼になり、
繰返しきをやるものなり。

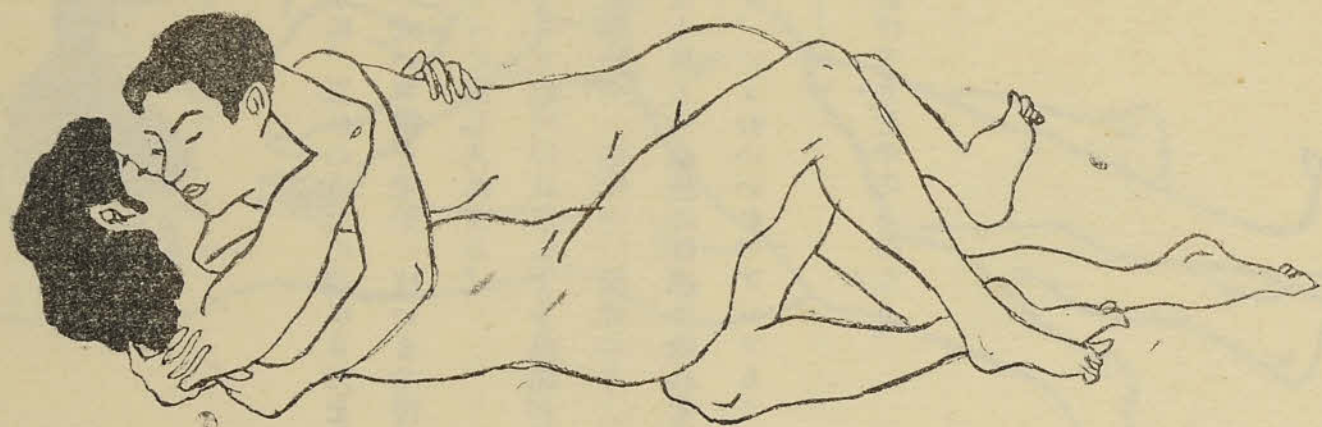


● 股すかし

女を横だきにして両足を男の左腕にてかゝへ
上げ、女の両腕で男の頸を巻き、差手で女の背
をだいて充分に気をもたせ、陰門よりいん水の
溢れ出るのを待つてから、一気にグツと根元ま
で押し込み、女の体を振廻すように揺り動かし
て激しへぬき差しすると、女は直ぐ狂気したや
うに興奮して、辺りかまわす大声でよがりなが
ら男にしがみつき、おびたどしくきをやるもの
なり。



女は下になり、男は膝をついて上に乗り、男根が子宮を突くほど奥まで這入つた時、女は両またを大きく開ひて男の腰をはさみ、互いに腹と腹、胸と胸とをピッタリと合せて胸の動悸を合わせつゝ、舌を吸つたり吸わせたり、情熱を傾むけて大腰小腰にスカリ／＼とぬいたり入れたりしながら男女同時にきをやるべし。

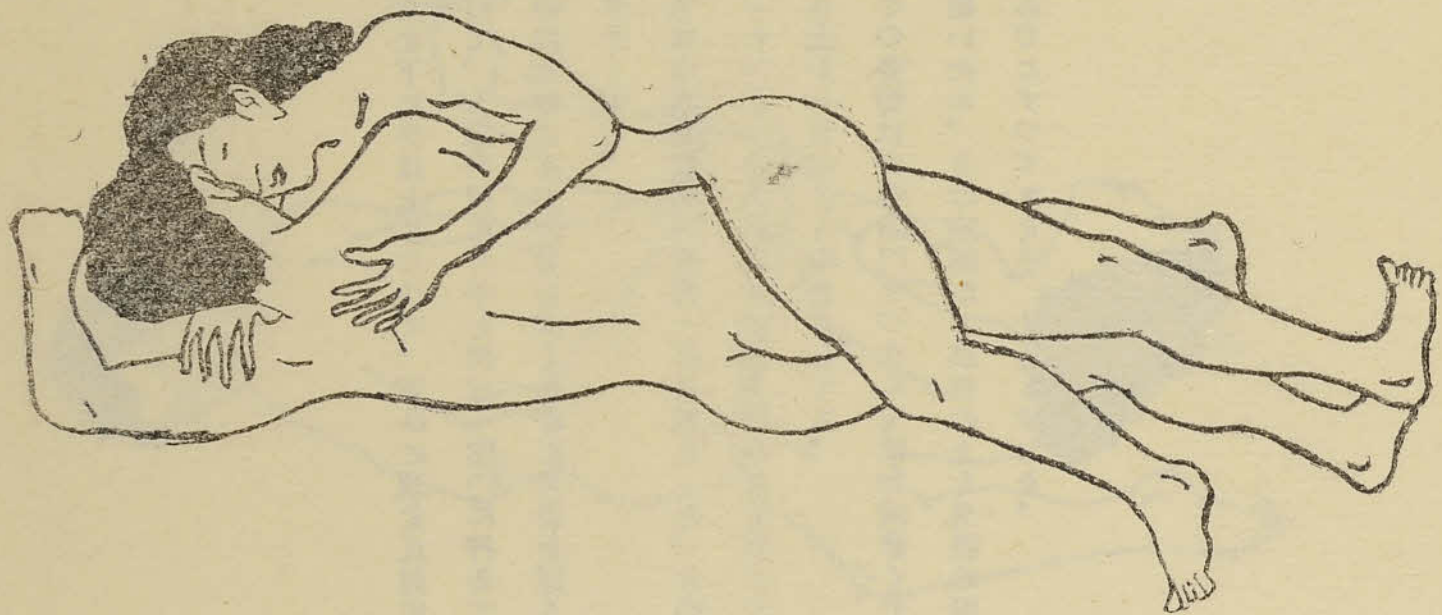


● かわずがけ

女を横だきに、互ひのまたの間にまたを入れ
てだき合ひ、太い男根を毛際一ぱいまで押し入
れ、こじるやうに出し入れする。

こうしてすると陰門の口がしまり亀頭が緊張
してチツ内を摩擦する刺戟が一層加わり、ぬき
差しの度に女も男も死ね程の快感に我れを忘れ
「あ……ッ、いゝわいいわ、アレツもういく
く、ウ……ン」

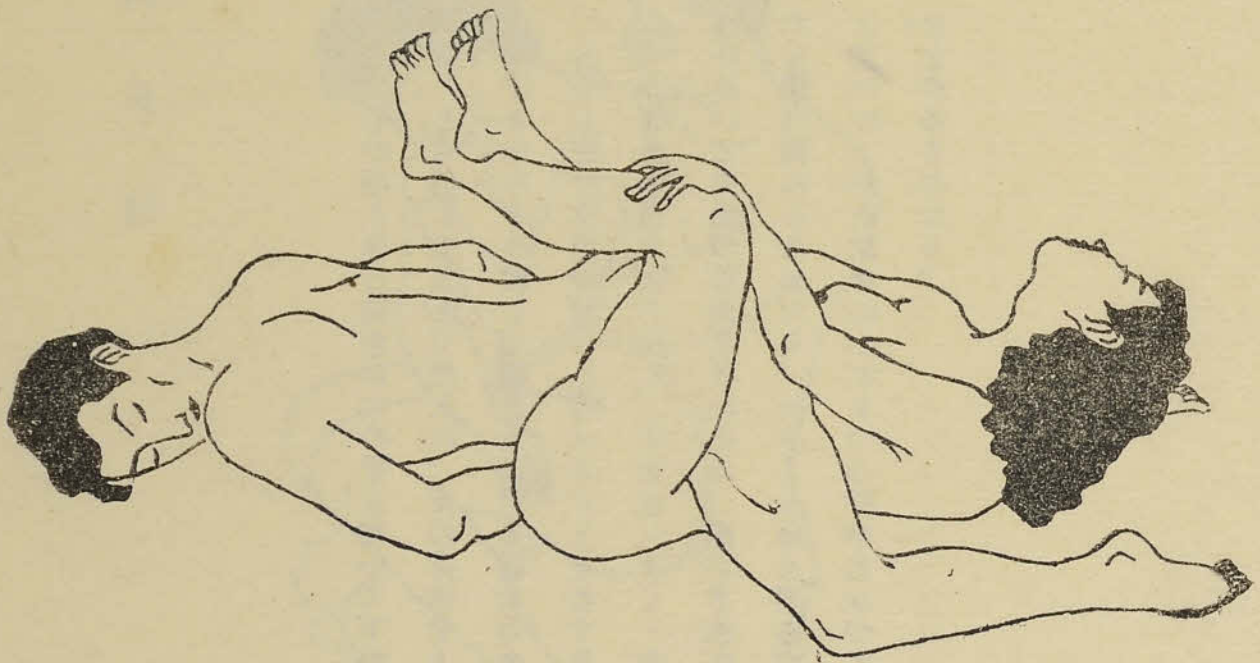
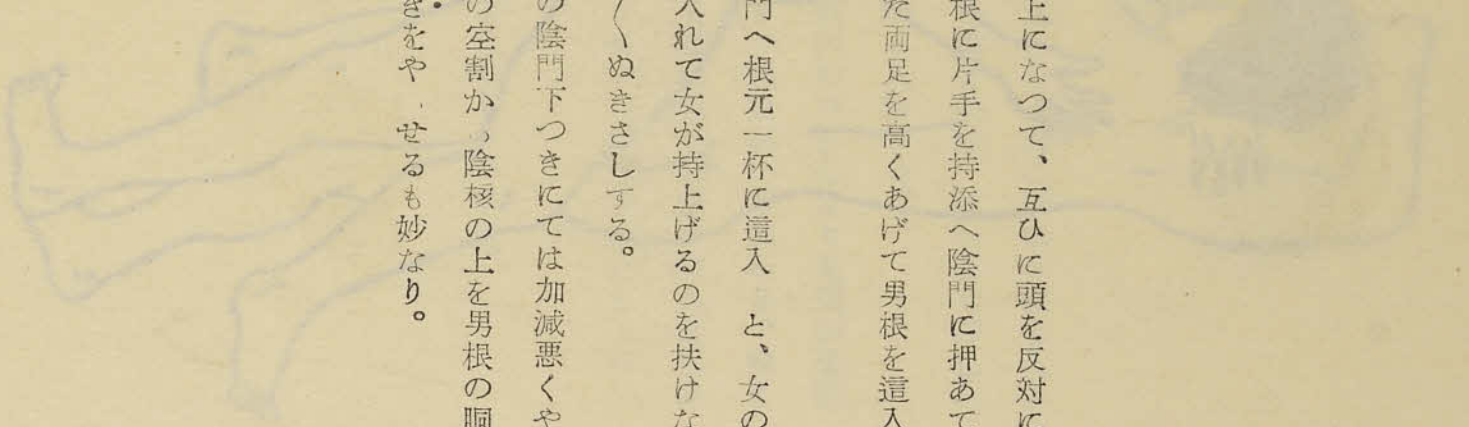
と唸り声をあげてきをやるものなり。



女を下に男は上になつて、互ひに頭を反対に向けて、女は男根に片手を持添へ陰門に押あて男の腰をはさんだ両足を高くあげて男根を這入りやすくする。

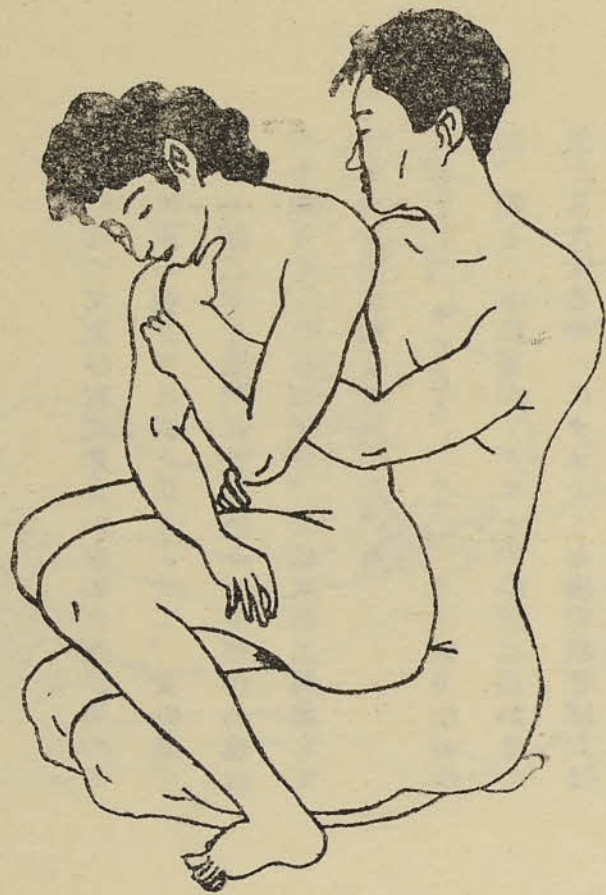
男は男根が陰門へ根元一杯に這入ると、女のしりの下に手を入れて女が持上げるのを扶けながら上からズボ／＼ぬきさしする。

この姿勢は女の陰門下つきにては加減悪くやり難いため、女の空割か、陰核の上を男根の脘うらでこすつてきをやせるも妙なり。



◎ 後 茶 臼

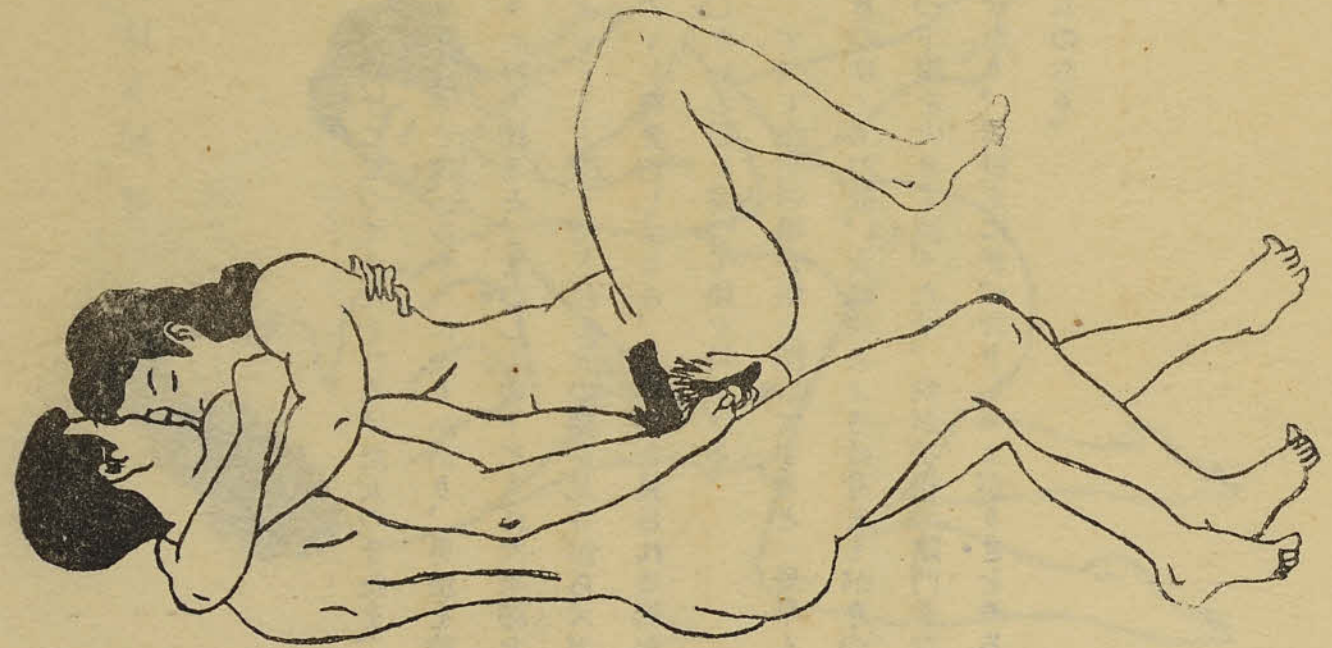
その名の通り後ろ向きに女の背をだいて下か
らグツと男根を毛際まで押入れ、女の身体を上
げ下げさせるやうにしてぬき差しする故女〇チ
ツ内の上壁は男根の雁うらでヌル／＼とこすら
れて心地よきこと限りなく、子宮は大きく左右
にひらいて男根の雁先を吸い込み、動かすたび
に五臓六腑にしみわたり、モウ／＼命も要らぬ
と互いによがり泣きによがりつつ夢中になつて
きをやるものなり。



● 二本 ぜめ

横になつて互ひにだき合い女のまたが男のまの上に乗る程グツと肌と肌をよせて、女の陰毛を分け指二本を陰門に差し込み、空割から陰核のあたりをくじり廻すと、女は次第に興奮していん水を内またまで流しながら、

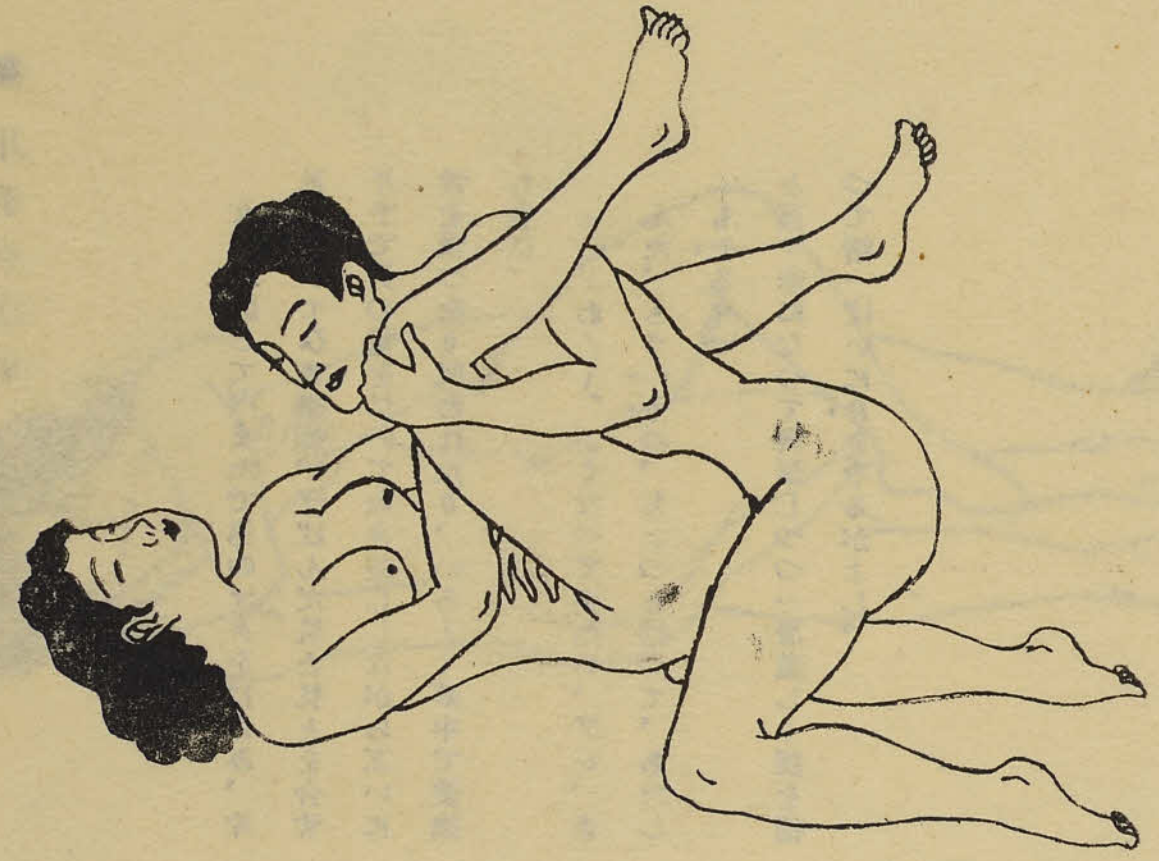
「あたし、モウどうしよう」とよがり始めれば、指を二本に重ねてグツと奥の方に届かせて気をもたせるやうにクネくと撫で廻せば女はいよ陰核を固くしてまた内を大きく膨脹させて呻きつつきをやるものなり。



● のぼりがけ

仰向けになつてまたをひるげた女のまたを、男は両手で押へるやうに乗りかかり、男根を徐々に押入れると、女のしりの下に入れた両膝をダン／＼と深く押入れて女の顔を見ながらズボ／＼とぬき差しすると、女は顔を見られる恥かしさから眼を瞑つて腰を持上げる。

すべて性交の場合眼を閉じてすると一層早いきのゆくもの故、女は快ろよさに身をもがきつつ下腹を大きく波うたせ、我が手指で陰門をなせたり、男根をにぎつたりしてよがりきをやるものなり。

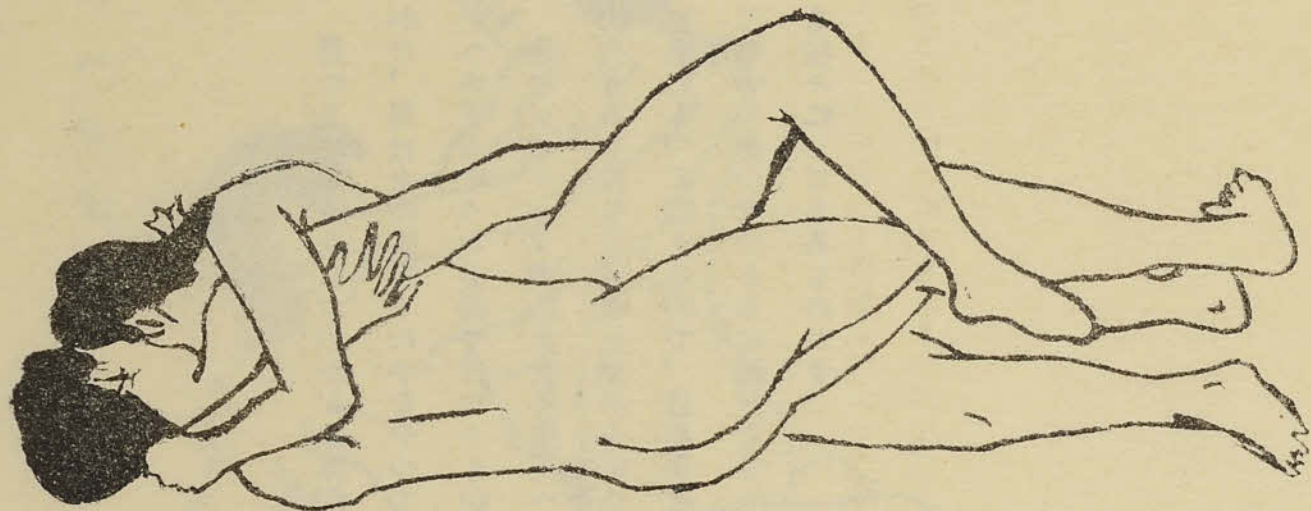


● 片手やははす

女は横臥して内またで男のマタをはさみ、片足で巻いてひき寄せ、汗ばんだ肌と肌とを合せ片手で男の背をだいてぬき差ししながら互いに舌を吸つたり吸われたり、いろ／＼夢中で愛撫し合ひ、

「いゝわ／＼、よくなつて来たワ、アレ、あなた、もういくの、ちよつと待つて、あたしもやるワ」

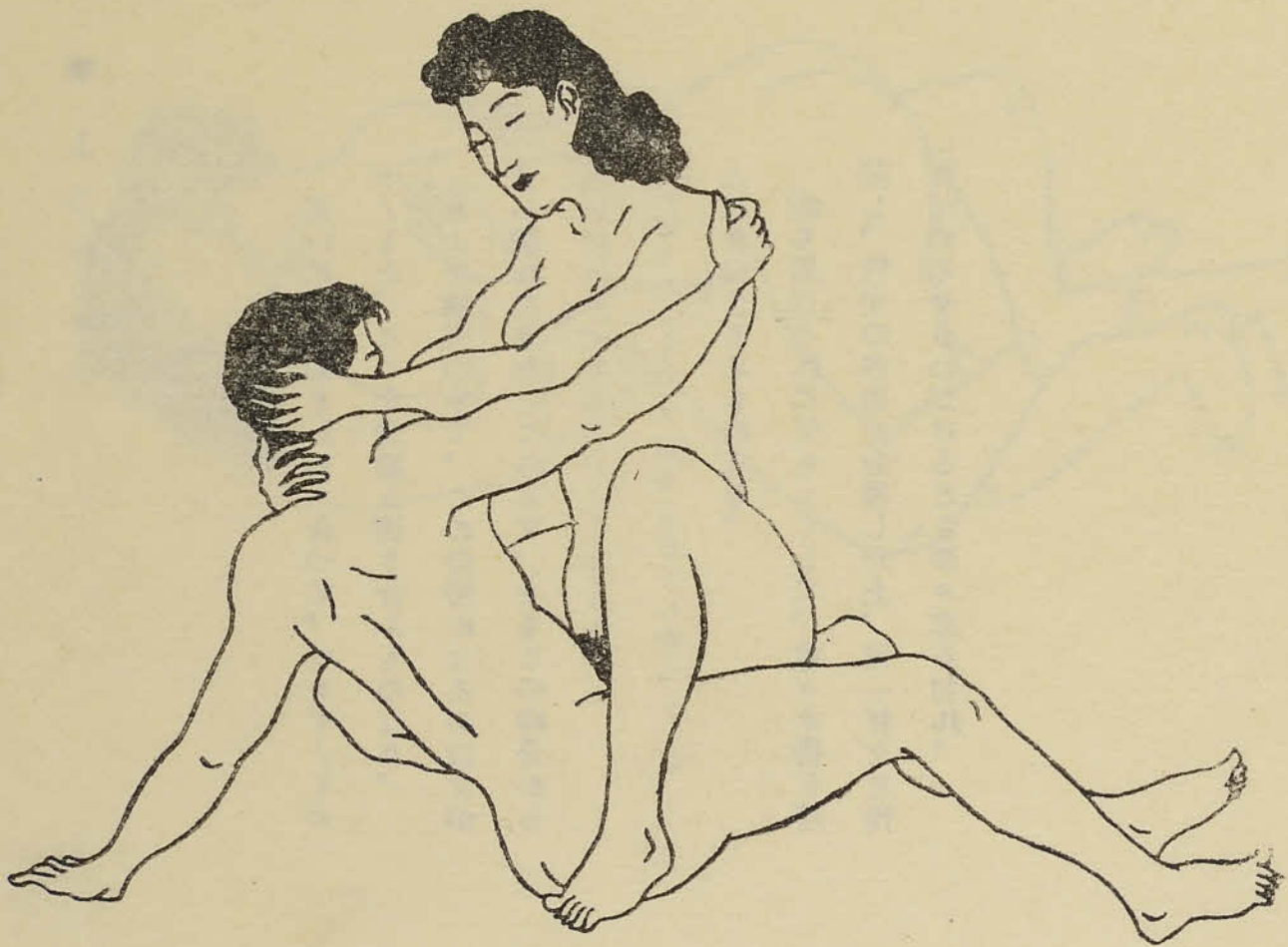
と真ツ赤になつて興奮しつゝ一層激しく腰を揺つて精一ぱいにきをやるがよし。



● 抱へあげ

男の上に馬乗りになつた女は男の頸に両手をかけ、男は女の脇腹下に手をやつて、グツとかへあげるやうな姿勢で行なうものである。

男はグツンヨリ濡れた女の陰門へ太い男根が出たり入つたりする様を眺めながら、いろく〜
享樂しもつて行えるので、思はず早くきが行き
二番つゞきでせぬと女に満足を与へられぬ場合
も往々にしてあるものなり。



互いに縄の如くからみ合つて、ビチャ／＼ズ
ボ／＼と、ここを先途と渡り合ふものなり。

およそ性交の中で、この姿勢になるのは女が
少し馴れて来たところにて、女もこの時分から
味がわかり、だん／＼よくなると、

「シューワ／＼、アレもうどうしやう……」
と泣きはじめるものなり。

即ち男はこれに気をよくして、愈々本書を精
読し、性交の奥儀を会得した上、精一杯女を悦
ばせるやう心がけること夢々忘る勿れ。

